

2012 年度(平成 24 年度)

学校法人東海大学事業報告書・財務報告書

(私立学校法第 47 条に関する書類)

学校法人東海大学



1. 財産目録
2. 貸借対照表
3. 収支計算書
4. 決算の概要
5. 事業報告書
6. 監事による監査報告書



# 1. 財 産 目 録



## 財 産 目 録

(2013年3月31日現在)

I. 資 産	総 額		335,092,593,299円
	内 1 基 本 財 産		215,772,033,132円
	2 運 用 財 産		119,320,560,167円
	[3 収 益 事 業 用 財 産		672,944,687円 ]
II. 負 債	総 額		78,723,230,657円
	[ 収 益 事 業 用 負 債		110,854,194円 ]
III. 正 味 財 産			256,369,362,642円

(注記 当財産目録の資産の評価は取得価格基準による。)

### 財 産 目 録 内 訳

#### [1] 資 産

1 基本財産	数 量	価 額(円)	
(1) 土 地	5,484,541.18㎡	60,592,368,939	
(2) 建 物	1,066,261.18㎡	111,636,593,696	
(3) 図 書	3,290,445冊	16,822,047,621	
(4) 教 具 ・ 校 具 ・ 備 品	450,593点	13,699,723,819	
(5) 構 築 物		12,072,463,878	
(6) 車 両	180台	183,992,329	
(7) 船 舶	1隻	26,485,965	
(8) 舟 艇	6隻	253,855	
(9) ソ フ ト ウ ェ ア		399,707,548	
(10) 建 設 仮 勘 定	土 地	2,317,602	
	建 物	305,670,000	
	構 築 物	30,407,880	
	合 計	215,772,033,132 円	

2 運用財産	数 量	価 額(円)	
(1) 預 金 ・ 現 金		48,012,978,914	
(2) 積 立 金		35,251,683,383	
(3) 有 価 証 券	1,272,127株	1,436,277,181	
(4) 出 資 金		369,088,529	
(5) 不 動 産	土地1,637,830.47㎡他	13,910,570,554	
(6) 未 収 入 金		14,890,296,675	
(7) そ の 他		4,088,336,427	
(8) 建 設 仮 勘 定	土 地 他	1,361,328,504	
	合 計	119,320,560,167 円	

3 収益事業財産		672,944,687 円
----------	--	---------------

#### [2] 負 債

1 固定負債	数 量	金 額(円)	
(イ) 長 期 借 入 金		32,810,880,000	
(ロ) 長 期 未 払 金		2,246,655,581	
(ハ) 退 職 給 与 引 当 金		12,652,412,250	
(ニ) そ の 他		78,438,775	
	合 計	47,788,386,606 円	

2 流動負債	数 量	金 額(円)	
(イ) 短 期 借 入 金		4,078,230,000	
(ロ) 前 受 金		8,522,721,350	
(ハ) 未 払 金		13,109,208,186	
(ニ) そ の 他		5,224,684,515	
	合 計	30,934,844,051 円	

3 収益事業負債		110,854,194 円
----------	--	---------------

#### [3] 借 用 財 産

		面 積(㎡)
(1) 土 地		439,002.35
(2) 建 物		1,363.09
		440,365.44 ㎡



## 2. 貸借対照表



# 貸借対照表

2013年3月31日

## 資産の部

(単位:円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
<b>固 定 資 産</b>	<b>271,133,614,268</b>	<b>272,458,426,318</b>	<b>△ 1,324,812,050</b>
有 形 固 定 資 産	230,644,224,642	232,862,034,510	△ 2,217,809,868
土 地	69,241,651,631	68,237,845,015	1,003,806,616
建 物	116,658,492,195	120,155,492,638	△ 3,497,000,443
構 築 物	12,311,853,241	12,714,683,175	△ 402,829,934
教 育 研 究 用 機 器 備 品	13,076,555,403	12,524,908,511	551,646,892
図 書	16,822,047,621	16,805,001,091	17,046,530
建 設 仮 勘 定 資 産	1,699,723,986	1,478,139,601	221,584,385
そ の 他 有 形 固 定 資 産	833,900,565	945,964,479	△ 112,063,914
<b>そ の 他 の 固 定 資 産</b>	<b>40,489,389,626</b>	<b>39,596,391,808</b>	<b>892,997,818</b>
諸 引 当 資 産	24,328,412,288	22,187,651,320	2,140,760,968
ソ フ ト ウ ェ ア	399,707,548	558,068,429	△ 158,360,881
松 前 重 義 記 念 基 金	10,923,271,095	10,732,575,326	190,695,769
そ の 他 固 定 資 産	4,837,998,695	6,118,096,733	△ 1,280,098,038
<b>流 動 資 産</b>	<b>63,958,979,031</b>	<b>59,921,593,589</b>	<b>4,037,385,442</b>
現 金 預 金	48,012,978,914	45,230,141,398	2,782,837,516
未 収 入 金	14,890,296,675	13,790,870,845	1,099,425,830
そ の 他 流 動 資 産	1,055,703,442	900,581,346	155,122,096
<b>資 産 の 部 合 計</b>	<b>335,092,593,299</b>	<b>332,380,019,907</b>	<b>2,712,573,392</b>

## 負債の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
<b>固 定 負 債</b>	<b>47,788,386,606</b>	<b>51,396,471,187</b>	<b>△ 3,608,084,581</b>
長 期 借 入 金	32,810,880,000	36,884,710,000	△ 4,073,830,000
長 期 未 払 金	2,246,655,581	2,561,602,530	△ 314,946,949
退 職 給 与 引 当 金	12,652,412,250	11,878,267,457	774,144,793
そ の 他 固 定 負 債	78,438,775	71,891,200	6,547,575
<b>流 動 負 債</b>	<b>30,934,844,051</b>	<b>30,795,980,485</b>	<b>138,863,566</b>
短 期 借 入 金	4,078,230,000	4,088,190,000	△ 9,960,000
未 払 金	13,109,208,186	12,736,337,339	372,870,847
前 受 金	8,522,721,350	8,665,450,350	△ 142,729,000
そ の 他 流 動 負 債	5,224,684,515	5,306,002,796	△ 81,318,281
<b>負 債 の 部 合 計</b>	<b>78,723,230,657</b>	<b>82,192,451,672</b>	<b>△ 3,469,221,015</b>

科 目	本年度末	前年度末	増 減
第 1 号 基 本 金	435,408,405,549	426,094,627,106	9,313,778,443
第 4 号 基 本 金	9,103,000,000	9,103,000,000	0
<b>基 本 金 の 部 合 計</b>	<b>444,511,405,549</b>	<b>435,197,627,106</b>	<b>9,313,778,443</b>

## 消費収支差額の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	188,142,042,907	185,010,058,871	3,131,984,036
<b>消費収支差額の部合計</b>	<b>△ 188,142,042,907</b>	<b>△ 185,010,058,871</b>	<b>△ 3,131,984,036</b>
科 目	本年度末	前年度末	増 減
<b>負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計</b>	<b>335,092,593,299</b>	<b>332,380,019,907</b>	<b>2,712,573,392</b>

※ 貸借対照表の概要については「4. 決算の概要」の中に記載しております。



### 3. 収支計算書



## 2012年度資金収支計算書

自 2012年4月 1日

至 2013年3月31日

### 収 入 の 部

学校法人東海大学

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
<b>学生生徒等納付金収入</b>	<b>51,078,600,000</b>	<b>50,622,754,478</b>	<b>455,845,522</b>
授 業 料 収 入	26,701,930,000	26,477,363,800	224,566,200
入 学 金 収 入	3,081,800,000	3,079,711,250	2,088,750
教 育 運 営 費 収 入	7,492,510,000	7,396,787,318	95,722,682
教 育 充 実 費 収 入	1,007,860,000	1,007,860,000	0
施 設 設 備 資 金 収 入	13,085,930,000	12,953,520,200	132,409,800
そ の 他 納 付 金 収 入	35,350,000	35,349,600	400
授 業 料 等 軽 減 額	△ 326,780,000	△ 327,837,690	1,057,690
<b>手 数 料 収 入</b>	<b>1,211,020,000</b>	<b>1,287,173,267</b>	<b>△ 76,153,267</b>
入 学 検 定 料 収 入	1,168,930,000	1,244,199,250	△ 75,269,250
試 験 料 収 入	3,590,000	3,460,840	129,160
証 明 手 数 料 そ の 他 収 入	38,500,000	39,513,177	△ 1,013,177
<b>寄 付 金 収 入</b>	<b>1,729,720,000</b>	<b>1,766,981,904</b>	<b>△ 37,261,904</b>
特 別 寄 付 金 収 入	830,590,000	864,845,274	△ 34,255,274
一 般 寄 付 金 収 入	899,130,000	902,136,630	△ 3,006,630
<b>補 助 金 収 入</b>	<b>13,887,870,000</b>	<b>13,725,678,583</b>	<b>162,191,417</b>
国 庫 補 助 金 収 入	8,667,060,000	8,492,253,062	174,806,938
地 方 公 共 団 体 補 助 金 収 入	5,218,310,000	5,230,925,521	△ 12,615,521
学 術 研 究 振 興 資 金 収 入	2,500,000	2,500,000	0
<b>資 産 運 用 収 入</b>	<b>1,225,780,000</b>	<b>1,251,486,859</b>	<b>△ 25,706,859</b>
受 取 利 息 ・ 配 当 金 収 入	283,460,000	303,798,945	△ 20,338,945
施 設 設 備 利 用 料 収 入	942,320,000	947,687,914	△ 5,367,914
<b>資 産 売 却 収 入</b>	<b>430,680,000</b>	<b>430,773,438</b>	<b>△ 93,438</b>
<b>事 業 収 入</b>	<b>65,565,910,000</b>	<b>66,221,537,694</b>	<b>△ 655,627,694</b>
補 助 活 動 収 入	427,830,000	425,796,538	2,033,462
付 属 事 業 収 入	242,590,000	246,137,870	△ 3,547,870
受 託 事 業 収 入	1,350,990,000	1,370,107,956	△ 19,117,956
医 療 収 入	63,544,500,000	64,179,495,330	△ 634,995,330
<b>雑 収 入</b>	<b>4,516,760,000</b>	<b>4,908,663,095</b>	<b>△ 391,903,095</b>
私 立 大 学 退 職 金 財 団 交 付 金 収 入	2,903,930,000	3,057,149,500	△ 153,219,500
私 学 退 職 金 団 体 交 付 金 収 入	639,120,000	707,831,270	△ 68,711,270
雑 収 入	973,710,000	1,143,682,325	△ 169,972,325
<b>借 入 金 等 収 入</b>	<b>8,003,000,000</b>	<b>8,004,400,000</b>	<b>△ 1,400,000</b>
<b>前 受 金 収 入</b>	<b>8,591,760,000</b>	<b>8,522,721,350</b>	<b>69,038,650</b>
授 業 料 前 受 金 収 入	2,915,610,000	2,854,099,950	61,510,050
入 学 金 前 受 金 収 入	2,894,600,000	2,897,687,500	△ 3,087,500
教 育 運 営 費 前 受 金 収 入	824,860,000	817,641,500	7,218,500
教 育 充 実 費 前 受 金 収 入	44,740,000	45,300,000	△ 560,000
施 設 設 備 資 金 前 受 金 収 入	1,911,950,000	1,907,986,000	3,964,000
そ の 他 納 付 金 前 受 金 収 入	0	6,400	△ 6,400
<b>そ の 他 の 収 入</b>	<b>14,425,350,000</b>	<b>15,932,548,518</b>	<b>△ 1,507,198,518</b>
敷 金 保 証 金 回 収 収 入	260,000	1,200,767,441	△ 1,200,507,441
退 職 給 与 引 当 資 産 か ら の 繰 入 金 収 入	46,540,000	396,547,063	△ 350,007,063
前 期 末 未 収 入 金 収 入	14,200,290,000	14,139,766,196	60,523,804
貸 付 金 回 収 収 入	175,640,000	185,979,769	△ 10,339,769
そ の 他	2,620,000	9,488,049	△ 6,868,049
<b>資 金 収 入 調 整 勘 定</b>	<b>△ 22,619,420,000</b>	<b>△ 23,992,810,809</b>	<b>1,373,390,809</b>
期 末 未 収 入 金	△ 13,953,960,000	△ 15,327,360,459	1,373,400,459
前 期 末 前 受 金	△ 8,665,460,000	△ 8,665,450,350	△ 9,650
<b>前 年 度 繰 越 支 払 資 金</b>	<b>45,230,141,398</b>	<b>45,230,141,398</b>	<b>0</b>
<b>収 入 の 部 合 計</b>	<b>193,277,171,398</b>	<b>193,912,049,775</b>	<b>△ 634,878,377</b>

※ 資金収支計算書の概要については「4. 決算の概要」の中に記載しております。

※ ( )内は収入の部合計に対する構成割合。

# 2012年度資金収支計算書

自 2012年4月 1日

至 2013年3月31日

支 出 の 部

学校法人東海大学

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
<b>人 件 費 支 出</b>	<b>66,933,010,000 ( 34.6%)</b>	<b>67,014,219,285 ( 34.6%)</b>	<b>△ 81,209,285</b>
教 員 人 件 費 支 出	31,053,900,000	30,951,368,401	102,531,599
職 員 人 件 費 支 出	31,656,100,000	31,637,919,302	18,180,698
役 員 報 酬 支 出	98,890,000	95,810,237	3,079,763
退 職 金 支 出	4,124,120,000	4,329,121,345	△ 205,001,345
<b>教 育 研 究 経 費 支 出</b>	<b>47,846,150,000 ( 24.8%)</b>	<b>47,083,876,435 ( 24.3%)</b>	<b>762,273,565</b>
消 耗 品 費 支 出	9,605,210,000	9,492,125,482	113,084,518
光 熱 水 費 支 出	3,029,790,000	2,947,218,472	82,571,528
旅 費 交 通 費 支 出	873,990,000	838,759,018	35,230,982
奨 学 費 支 出	1,286,400,000	1,313,485,519	△ 27,085,519
印 刷 製 本 費 支 出	593,230,000	533,808,271	59,421,729
通 信 運 搬 費 支 出	270,510,000	271,696,171	△ 1,186,171
修 繕 費 支 出	2,507,870,000	2,381,849,421	126,020,579
賃 借 料 支 出	1,096,130,000	1,030,603,778	65,526,222
委 託 費 支 出	10,268,870,000	9,922,986,304	345,883,696
医 療 経 費	17,134,740,000	17,240,640,532	△ 105,900,532
そ の 他	1,179,410,000	1,110,703,467	68,706,533
<b>管 理 経 費 支 出</b>	<b>7,029,910,000 ( 3.6%)</b>	<b>6,776,577,675 ( 3.5%)</b>	<b>253,332,325</b>
消 耗 品 費 支 出	324,520,000	289,080,504	35,439,496
光 熱 水 費 支 出	482,410,000	470,874,787	11,535,213
旅 費 交 通 費 支 出	232,620,000	195,131,945	37,488,055
印 刷 製 本 費 支 出	449,340,000	413,547,551	35,792,449
広 告 費 支 出	403,450,000	389,112,048	14,337,952
通 信 運 搬 費 支 出	84,820,000	66,477,684	18,342,316
修 繕 費 支 出	243,820,000	232,918,704	10,901,296
賃 借 料 支 出	880,560,000	857,255,810	23,304,190
委 託 費 支 出	2,679,810,000	2,629,787,894	50,022,106
公 租 公 課 支 出	321,930,000	384,166,621	△ 62,236,621
そ の 他	926,630,000	848,224,127	78,405,873
<b>借 入 金 等 利 息 支 出</b>	<b>814,530,000 ( 0.4%)</b>	<b>814,440,883 ( 0.4%)</b>	<b>89,117</b>
<b>借 入 金 等 返 済 支 出</b>	<b>12,088,190,000 ( 6.3%)</b>	<b>12,088,190,000 ( 6.2%)</b>	<b>0</b>
<b>施 設 関 係 支 出</b>	<b>4,479,190,000 ( 2.3%)</b>	<b>4,277,884,402 ( 2.2%)</b>	<b>201,305,598</b>
土 地 支 出	1,088,190,000	1,015,540,093	72,649,907
建 物 支 出	2,123,800,000	2,102,783,770	21,016,230
構 築 物 支 出	811,600,000	809,147,571	2,452,429
建 設 仮 勘 定 支 出	455,580,000	348,532,968	107,047,032
そ の 他	20,000	1,880,000	△ 1,860,000
<b>設 備 関 係 支 出</b>	<b>4,796,390,000 ( 2.5%)</b>	<b>4,589,859,624 ( 2.4%)</b>	<b>206,530,376</b>
教育研究用機器備品支出	4,275,340,000	4,150,035,893	125,304,107
その他の機器備品支出	116,230,000	92,348,959	23,881,041
図 書 支 出	297,560,000	240,816,814	56,743,186
そ の 他	107,260,000	106,657,958	602,042
<b>資 産 運 用 支 出</b>	<b>2,429,570,000 ( 1.3%)</b>	<b>2,877,977,936 ( 1.5%)</b>	<b>△ 448,407,936</b>
退職給与引当資産への繰入支出	62,420,000	62,411,350	8,650
施設設備引当資産への繰入支出	4,380,000	459,375,025	△ 454,995,025
特定引当資産への繰入支出	2,016,700,000	2,015,521,656	1,178,344
松前重義記念基金への繰入支出	196,080,000	190,686,769	5,393,231
そ の 他	149,990,000	149,983,136	6,864
<b>そ の 他 の 支 出</b>	<b>13,448,480,000 ( 7.0%)</b>	<b>13,641,248,400 ( 7.0%)</b>	<b>△ 192,768,400</b>
貸 付 金 支 払 支 出	342,470,000	332,321,250	10,148,750
前 期 末 未 払 金 支 払 支 出	12,736,290,000	12,738,619,539	△ 2,329,539
前 払 金 支 払 支 出	369,720,000	450,694,655	△ 80,974,655
そ の 他	0	119,612,956	△ 119,612,956
<b>予 備 費</b>	<b>0 ( 0.0%)</b>	<b>0 ( 0.0%)</b>	<b>0</b>
<b>資 金 支 出 調 整 勘 定</b>	<b>△ 12,770,730,000 -</b>	<b>△ 13,265,203,779 -</b>	<b>494,473,779</b>
期 末 未 払 金	△ 12,306,050,000	△ 12,801,067,992	495,017,992
前 期 末 前 払 金	△ 464,680,000	△ 464,135,787	△ 544,213
<b>次 年 度 繰 越 支 払 資 金</b>	<b>46,182,481,398 -</b>	<b>48,012,978,914 -</b>	<b>△ 1,830,497,516</b>
<b>支 出 の 部 合 計</b>	<b>193,277,171,398 -</b>	<b>193,912,049,775 -</b>	<b>△ 634,878,377</b>

※ ( )内は支出の部合計に対する構成割合。

# 2012年度消費収支計算書

自 2012年4月 1日

至 2013年3月31日

## 消費収入の部

学校法人東海大学

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
学生生徒等納付金	51,078,600,000 ( 36.4%)	50,622,754,478 ( 35.9%)	455,845,522
手数料	1,211,020,000 ( 0.9%)	1,287,173,267 ( 0.9%)	△ 76,153,267
寄付金	1,831,720,000 ( 1.3%)	1,933,655,444 ( 1.4%)	△ 101,935,444
特別寄付金	830,590,000	864,845,274	△ 34,255,274
一般寄付金	899,130,000	902,136,630	△ 3,006,630
現物寄付金	102,000,000	166,673,540	△ 64,673,540
補助金	13,887,870,000 ( 9.9%)	13,725,678,583 ( 9.7%)	162,191,417
国庫補助金	8,667,060,000	8,492,253,062	174,806,938
地方公共団体補助金	5,218,310,000	5,230,925,521	△ 12,615,521
学術研究振興資金	2,500,000	2,500,000	0
資産運用収入	1,225,780,000 ( 0.9%)	1,251,633,534 ( 0.9%)	△ 25,853,534
資産売却差額	131,920,000 ( 0.1%)	132,014,619 ( 0.1%)	△ 94,619
事業収入	65,565,910,000 ( 46.7%)	66,221,537,694 ( 47.0%)	△ 655,627,694
雑収入	5,516,760,000 ( 3.9%)	5,840,974,482 ( 4.1%)	△ 324,214,482
帰属収入合計	140,449,580,000	141,015,422,101	△ 565,842,101
基本金組入額合計	△ 9,187,400,000 ( 6.5%)	△ 9,313,778,443 ( 6.6%)	126,378,443
消費収入の部合計	131,262,180,000	131,701,643,658	△ 439,463,658

## 消費支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
人件費	68,651,890,000 ( 48.9%)	68,715,926,244 ( 48.7%)	△ 64,036,244
教員人件費	31,053,900,000	30,951,368,401	102,531,599
職員人件費	31,656,100,000	31,637,919,302	18,180,698
役員報酬	98,890,000	95,810,237	3,079,763
退職職金	4,124,120,000	4,251,983,895	△ 127,863,895
退職給与引当金繰入額	90,860,000	151,444,409	△ 60,584,409
退職給与引当金特別繰入額	1,628,020,000	1,627,400,000	620,000
教育研究経費	57,798,080,000 ( 41.2%)	56,882,456,245 ( 40.3%)	915,623,755
消耗品費	9,605,210,000	9,492,125,482	113,084,518
光熱水費	3,029,790,000	2,947,218,472	82,571,528
旅費交通費	873,990,000	838,759,018	35,230,982
奨学費	1,286,400,000	1,313,485,519	△ 27,085,519
印刷製本費	593,230,000	533,808,271	59,421,729
通信運搬費	270,510,000	271,696,171	△ 1,186,171
修繕費	2,507,870,000	2,381,849,421	126,020,579
賃借料	1,096,130,000	1,030,603,778	65,526,222
委託費	10,268,870,000	9,922,986,304	345,883,696
減価償却額	9,951,930,000	9,931,739,651	20,190,349
医療経費	17,134,740,000	17,107,480,691	27,259,309
その他	1,179,410,000	1,110,703,467	68,706,533
管理経費	8,278,270,000 ( 5.9%)	8,031,173,068 ( 5.7%)	247,096,932
消耗品費	324,520,000	289,082,104	35,437,896
光熱水費	482,410,000	470,874,787	11,535,213
旅費交通費	232,620,000	195,131,945	37,488,055
印刷製本費	449,340,000	413,547,551	35,792,449
広告費	403,450,000	389,112,048	14,337,952
通信運搬費	84,820,000	66,980,744	17,839,256
修繕費	243,820,000	232,918,704	10,901,296
賃借料	880,560,000	857,255,810	23,304,190
委託費	2,679,810,000	2,629,787,894	50,022,106
公租公課	321,930,000	384,166,621	△ 62,236,621
奨学金免除額	105,330,000	105,420,000	△ 90,000
減価償却額	1,143,030,000	1,146,608,774	△ 3,578,774
その他	926,630,000	850,286,086	76,343,914
借入金等利息	814,530,000 ( 0.6%)	814,440,883 ( 0.6%)	89,117
資産処分差額	342,370,000 ( 0.2%)	301,601,071 ( 0.2%)	40,768,929
徴収不能引当金繰入額	88,980,000 ( 0.1%)	88,030,183 ( 0.1%)	949,817
予備費	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)	0
消費支出の部合計	135,974,120,000 ( 96.8%)	134,833,627,694 ( 95.6%)	1,140,492,306
(当年度帰属収支差額)	(4,475,460,000) ( 3.2%)	(6,181,794,407) ( 4.4%)	(△1,706,334,407)
当年度消費収支差額	△ 4,711,940,000	△ 3,131,984,036	△ 1,579,955,964
前年度繰越消費収支超過額	△ 185,010,058,871	△ 185,010,058,871	-
翌年度繰越消費収支超過額	△ 189,721,998,871	△ 188,142,042,907	△ 1,579,955,964

※ 消費収支計算書の概要については「4. 決算の概要」の中に記載しております。

※ ( )内は帰属収入合計に対する比率。

# 収益事業計算書

## 貸借対照表

2013年3月31日

東海大学出版会

(単位:円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
[ 流 動 資 産 ]	659,901,391	[ 流 動 負 債 ]	110,854,194
現 金 預 金	45,770,728	買 掛 金	63,178,897
受 取 手 形	680,000	未 払 金	32,076,729
売 掛 金	112,247,322	賞 与 引 当 金	1,520,000
商 品	461,874,739	返 品 調 整 引 当 金	13,000,000
委 託 品	28,129,572	そ の 他	1,078,568
仕 掛 品	6,648,093		
未 収 入 金	3,910,740		
そ の 他	1,680,197		
貸 倒 引 当 金	△ 1,040,000	負 債 の 部 合 計	110,854,194
[ 固 定 資 産 ]	13,043,296	純 資 産 の 部	
( 有 形 固 定 資 産 )	13,036,296	元 入 金	912,111,231
車 両	86,867	当 期 未 処 理 損 失	△ 350,020,738
器 具 備 品	12,949,429		
( 投 資 等 )	7,000		
破 産 更 生 債 権 等	1,687,560		
長 期 前 払 費 用	7,000		
貸 倒 引 当 金	△ 1,687,560	純 資 産 合 計	562,090,493
資 産 の 部 合 計	672,944,687	負 債 ・ 純 資 産 の 部 合 計	672,944,687

## 損益計算書

自 2012年4月1日

至 2013年3月31日

東海大学出版会

(単位:円)

科 目	金 額
<b>I 営業損益</b>	
1. 売 上 高	261,850,196
2. 売 上 原 価	152,216,726
売上総利益	109,633,470
返品調整引当金戻入額	13,000,000
返品調整引当金繰入額	13,000,000
差引売上総利益	109,633,470
3. 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	85,535,987
営業利益	24,097,483
<b>II 営業外損益</b>	
営業外収益	74,616
営業外費用	54,080
本 会 計 へ の 繰 入 前 利 益	24,118,019
当 期 利 益	24,118,019
前 期 損 失	374,138,757
当 期 末 損 失	350,020,738

## 4. 決算の概要



# 2012 年度決算の概要

## 学校法人における財務計算書類の概要説明

学校法人では、営利を主目的としないため、経営成績を明らかにするために企業が作成している損益計算書ではなく、学校法人会計基準（※）に基づいて「資金収支計算書」「消費収支計算書」「貸借対照表」という財務計算書類を作成します。それぞれの計算書類の概要は以下の通りとなっています。

※国からの経常費補助金の交付を受ける学校法人が行う会計処理について、文部科学省が定めた会計基準

### 資金収支計算書

学校法人の当該年度の諸活動にかかるすべての収支の内容および支払資金（現金・預金）の収支のてん末を明らかにするために作成されるものです。学生生徒等納付金や補助金等によって集められた資金が学校法人の目的である教育研究活動（授業・研究活動・施設設備投資 等）にどれだけ効果的に投下され、その結果、支払資金の保有状況がどのようなようになったかを表します。営利を主目的としない学校法人において、もっとも特徴のある財務計算書類のひとつです。

### 消費収支計算書

学校法人の当該年度の収支の内容および均衡の状態を明らかにするために作成されるものです。学生生徒等納付金や補助金等の財源（帰属収入）から学校を保持するための土地・建物・備品の取得費等（基本金組入）を差し引いた後の財源（消費収入）で、教育研究等のサービス等を行うためのコスト（消費支出）が賄われているかを表します。また消費収支計算書には、寄贈等による現物寄付金や建物・備品の減価償却額といった資金の出入りを伴わない計上額も含まれます。企業会計決算書の損益計算書と同等のものとも考えることもできます。

### 貸借対照表

学校法人の年度末日（3月31日）における資産や負債の状態を明らかにするために作成されるものです。資産は学校法人が所有している財産をどのような状態（土地、建物、備品、預金等）で持っているか、また負債は返還義務のある学校法人の債務がどのような状態（借入金、未払金、預り金等）にあるかを表しているものです。

## 資金収支計算書の概要

### 2012年度資金収支計算書

#### 収入の部

学校法人東海大学

(単位：百万円)

科 目	2011年度 決算	2012年度 決算	差 異
学生生徒等納付金収入	50,378	50,623	△ 245
手数料収入	1,156	1,287	△ 131
寄付金収入	1,686	1,767	△ 81
補助金収入	14,195	13,726	469
資産運用収入	1,255	1,251	4
資産売却収入	173	431	△ 258
事業収入	63,009	66,221	△ 3,212
雑収入	3,892	4,909	△ 1,017
借入金等収入	8,003	8,004	△ 1
前受金収入	8,665	8,523	142
その他の収入	14,952	15,933	△ 981
資金収入調整勘定	△ 22,947	△ 23,993	1,046
前年度繰越支払資金	44,510	45,230	△ 720
収入の部合計	188,927	193,912	△ 4,985

前年度とほぼ同数の大学・短大・初等中等機関約45,000人の学納金収入を計上

大学・短大・初等中等機関約59,000人の検定料収入等を計上。2011年度の47,000人から大幅に増加

国や地方公共団体等からの補助金収入を計上  
2011年度には東日本大震災に伴う附属浦安高等学校の復旧工事について交付された補助金を計上

退職金支出の財源となる退職金財団・社団からの交付金収入や科学研究費補助金の間接経費等を計上

前年度とほぼ同数の大学・短大・初等中等機関約13,000人の学費前受金を計上

#### 支出の部

学校法人東海大学

(単位：百万円)

科 目	2011年度 決算	2012年度 決算	差 異
人件費支出	65,376	67,014	△ 1,638
教育研究経費支出	46,642	47,084	△ 442
管理経費支出	7,247	6,777	470
借入金等利息支出	909	814	95
借入金等返済支出	11,756	12,088	△ 332
施設関係支出	6,560	4,278	2,282
設備関係支出	5,278	4,590	688
資産運用支出	1,194	2,878	△ 1,684
その他の支出	12,430	13,641	△ 1,211
資金支出調整勘定	△ 13,695	△ 13,265	△ 430
次年度繰越支払資金	45,230	48,013	△ 2,783
支出の部合計	188,927	193,912	△ 4,985

教員・事務職員・技術職員他約6,900人の人件費を計上

教育及び研究活動に係る経費、並びに修繕費他、事務経費を計上

土地購入や校舎の改築費用、教育研究用機器備品や資産となるソフトウェア等を計上

※上表の額は十百万円単位を四捨五入して掲載してあります。なお、一部の科目で端数処理による誤差を調整しております。

収入の部において、学生生徒等納付金収入は学生生徒数(約45,000人)が前年度とほぼ同数であったものの、東海大学における退学・除籍者数が減少したこと等により、前年度に比べ2億4,500万円増の506億2,300万円となりました。手数料収入は受験者数の大幅な増加により前年度に比べ1億3,100万円増の12億8,700万円となりました。補助金収入については2011年度には東日本大震災に係る授業料減免事業及び復旧事業に係る補助金が計上されていたこと等から2012年度の交付額については2011年度から4億6,900万円減額の137億2,600万円となりました。事業収入については、附属八王子病院の病床開床数増等による医療収入の増額等で662億2,100万円となりました。

支出の部においては、人件費支出が前年度に比べ16億3,800万円増加しておりますが、そのうち13億1,900万円は依頼・選択定年制施策等に伴う退職者増による退職金支出の増加となっております。退職金支出以外の人件費については、附属八王子病院の病床開床数増に伴う人員増加により附属病院群で4億100万円増加しているものの、それ以外の機関・学校では抑えられています。その他の経費についても医療収入増収に伴う医療経費の増加や東日本大震災での原発事故の影響等による電気料金の値上げに伴う光熱水費の増加等がありましたが、徹底した予算執行管理と経常経費の節減に努めた結果、教育研究・管理経費の経費全般で、前年度とほぼ同額に抑えることができました。施設設備関係支出については、医学部附属大磯病院の病院用地取得、防災機能等強化緊急特別推進事業として東海大学湘南校舎、熊本校舎、阿蘇校舎における耐震補強工事の他、医学部附属八王子病院研修棟2の新築工事、附属相模高等学校のグラウンド整備工事(人工芝化)や附属熊本星翔高等学校の松前記念サッカー場整備工事、附属病院高額医療機器購入及び湘南校舎の教育事務用コンピュータリースの更新等を行いました。2011年度には附属病院職員寮建設や東海大学高輪校舎2号館新築等の大規模事業を実施したことや、震災に係る復旧工事等が計上されていたことから、施設設備関係支出の総額では前年度より29億7,000万円の減少となっております。

収支状況の改善に伴い増加した支払資金から、学校法人東海大学建学75周年に向けた施設整備事業を計画的に進めていくための原資に充当すべく、特定引当資産に20億円の積立を実行しましたが、次年度繰越金は前年度に比べ27億8,300万円の増加となっております。

# 消費収支計算書の概要

## 2012年度消費収支計算書

自 2012年4月 1日  
至 2013年3月31日  
消費収入の部

学校法人東海大学

(単位：百万円)

科 目	2011年度 決算	2012年度 決算	差異
学生生徒等納付金	50,378	50,623	△ 245
手数料	1,156	1,287	△ 131
寄付金	1,801	1,934	△ 133
補助金	14,195	13,726	469
資産運用収入	1,255	1,252	3
資産売却差額	90	132	△ 42
事業収入	63,009	66,221	△ 3,212
雑収入	3,898	5,841	△ 1,943
帰属収入合計	135,782	141,016	△ 5,234
基本金組入額合計	△ 9,910	△ 9,314	△ 596
消費収入の部合計	125,872	131,702	△ 5,830

資金収支の計上額以外に構築物、機器備品や図書等の現物寄付を約 1.7 億円計上

土地及び機器備品、車両等の売却益を計上

2012年度はこれまで過計上となっていることが明らかになった退職給与引当金を特別に退職給与引当金戻入益として約 9.3 億円を計上

学校法人を永続的に維持するために必要不可欠な資産(校舎・グラウンド等)を自己資金で維持することを目的とし、そのための収入を消費支出に充当させないために帰属収入から優先的に控除される額を当期の基本金組入額として計上

## 消費支出の部

(単位：百万円)

科 目	2011年度 決算	2012年度 決算	差異
人件費	67,015	68,716	△ 1,701
教育研究経費	57,287	56,882	405
管理経費	8,485	8,031	454
借入金等利息	909	815	94
資産処分差額	1,165	302	863
徴収不能引当金繰入額	65	88	△ 23
消費支出の部合計	134,926	134,834	92
当年度消費支出超過額	9,054	3,132	5,922
前年度繰越消費支出超過額	175,956	185,010	△ 9,054
翌年度繰越消費支出超過額	185,010	188,142	△ 3,132

資金収支の計上額以外に退職給与引当金繰入額約 1.5 億円、及び退職給与引当金特別繰入額約 16.3 億円計上

資金収支の計上額以外に建物・機器備品等の減価償却額を約 111 億円計上

建替及び老朽化に伴う建物・構築物・機器備品・図書等の除却額

※上表の額は十百万円単位を四捨五入して掲載してあります。なお、一部の科目では端数処理による誤差を調整しております。

資金収支計算書の概要の他、消費収入の部では、機器備品等の現物寄付金 1 億 6,700 万円、道路拡張工事による湘南校舎土地売却等に係る資産売却差額(注) 1 億 3,200 万円を計上しております。また、会計基準の変更に伴い私立大学退職金財団に対する掛金累計額と財団からの交付金累計額の差額を消費収支計算書に計上することとなり、2012年度において掛金累計額が交付金累計額を上回っている本学においてはその差額を退職給与引当金戻入益として 9 億 2,800 万円計上し、帰属収入は 1,410 億 1,600 万円となりました。基本金の部は医学部附属大磯病院の病院用地取得及び東海大学湘南校舎、熊本校舎、阿蘇校舎にて実施した耐震補強工事等にかかる組入額を計上し 93 億 1,400 万円となり、消費収入の部合計は 1,317 億 200 万円と前年度に比べて 58 億 3,000 万円の増額となりました。

消費支出の部では、人件費には 2011 年度から 10 年間にわたって均等に積み上げることとなった退職給与引当金特別繰入額(注) 16 億 2,800 万円を計上した他、退職給与引当金繰入額(注) を 1 億 5,100 万円計上しました。教育研究経費・管理経費には施設・設備等の減価償却額(注) 110 億 7,800 万円等が計上されています。また、東海大学湘南校舎における東門守衛所や体育器具庫及び備品・図書等に係る除却等を資産処分差額(注) として 3 億 200 万円、医療収入の未回収等に充当する徴収不能引当金繰入額(注) を 8,800 万円計上し、消費支出の部合計は 1,348 億 3,400 万円となりました。

以上により、帰属収支差額は 61 億 8,200 万円の収入超過、帰属収支差額比率 4.4% となり、2010 年度より 3 ヶ年連続で帰属収支差額における収入超過を達成し、2011 年度決算に比べても大幅な収支の改善となりました。しかし、帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入から消費支出を引いた当年度消費支出超過額は 31 億 3,200 万円であり、前年度からの繰越消費支出超過額 1,850 億 1,000 万円とあわせると翌年度に繰り越す消費支出超過額は 1,881 億 4,200 万円となります。今後も更なる収支改善を推進し、累積している消費支出超過額の減少をはかってまいります。

### 【用語解説(注)】

(資産売却差額・資産処分差額)

土地・建物等の固定資産を売却した場合に、売却した資産の売却価額(売却代金)が帳簿価額(取得価額から減価償却額を差し引いた

後の額)より大きい場合に利益として帰属収入に計上するものが資産売却差額です。逆に売却価額が帳簿価額より小さい場合、もしくは売却ではなく廃棄処分した資産の帳簿価額を損失として消費支出に計上するものが資産処分差額です。

(退職給与引当金繰入額・特別繰入額)

将来、教職員が退職するときに支払われる退職金の見積額の一部を人件費(「退職給与引当金繰入額」として消費支出に計上するものです。また、この繰入額の累計額は「退職給与引当金」として貸借対照表の固定負債に計上されます。

(減価償却額)

建物・備品等の固定資産は、時の経過によりその価値が徐々に減少していくという会計上の考え方により、使用期間に基づいて合理的な方法により配分した価値の減少分を費用として消費支出に計上するものです。

(徴収不能引当金)

授業料や医療収入の未回収分のうち徴収不能の可能性がある場合、過去の実績率に基づいて算出した徴収不能見積額を消費支出(「徴収不能引当金繰入額」)に計上するものです。また、この繰入額の累計額は「徴収不能引当金」として貸借対照表の負債に計上されます。

(実際には流動資産に計上される未収入金と相殺して計上されるため、貸借対照表では徴収不能引当金は確認することが出来ません。)

## 貸借対照表の概要

貸借対照表  
2013年3月31日

資産の部		(単位:百万円)		
科	目	本年度末	前年度末	増減
固定	資産	271,134	272,458	△ 1,324
流動	資産	63,959	59,922	4,037
資産の部合計		335,093	332,380	2,713

負債の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
固定	負債	47,790	51,396	△ 3,606
流動	負債	30,933	30,796	137
負債の部合計		78,723	82,192	△ 3,469

基本金の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
第1号	基本金	435,409	426,095	9,314
第4号	基本金	9,103	9,103	0
基本金の部合計		444,512	435,198	9,314

消費収支差額の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越	消費支出超過額	188,142	185,010	3,132
消費収支差額の部合計		△ 188,142	△ 185,010	△ 3,132
科	目	本年度末	前年度末	増減
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計		335,093	332,380	2,713

※ 上表の額は十万円単位を四捨五入して掲載してあります。なお、一部の科目で端数処理による誤差を調整しております。

減価償却による資産の減少約 111 億円に対し、当期取得した土地、建物、構築物、機器備品、図書等との差異により約 13 億円の固定資産が減少

支払資金となる現金預金、医療収入等に係る未収入金、医薬品等の貯蔵品等を計上  
(現金預金が約 27.8 億円増加、医療収入の増加に伴う未収入金が約 10.0 億円増加)

返済期限及び支払期限が 1 年以上先となる長期借入金・未払金を計上  
(長期借入金が約 41 億円減、退職給与引当金が約 7.7 億円増)

返済期限及び支払期限が 1 年以内となる短期借入金・未払金を計上

学校法人の諸活動を永続的に維持するために必要不可欠な固定資産(校舎・グラウンド等)を計上

学校法人の諸活動を永続的に維持するために恒常的に保持すべき資金を計上  
(支払資金が不足した際に恒常的に保持すべき資金にて充当するという性格を持ち、学校法人会計基準においては文部科学大臣の定めた額として前年度決算額ベースで約 1 か月分の支払資金を保持すべきとされる)

資産の部においては、固定資産において減価償却 110 億 7,800 万円等の減額があったものの、医学部付属大磯病院の病院用地取得、東海大学湘南校舎、熊本校舎、阿蘇校舎における耐震補強工事の他、医学部付属八王子病院研修棟 2 の新築工事、附属相模高等学校のグラウンド整備工事(人工芝化)や附属熊本星翔高等学校の松前記念サッカー場整備工事、附属病院高額医療機器購入及び湘南校舎の教育事務用コンピューターリースの更新等の施設設備投資、及び特定引当資産の 20 億円の積立等によって、固定資産全体では前年度に比べて 13 億 2,400 万円の減少となりました。流動資産は、現金預金が 27 億 8,300 万円増加しました。また、附属病院群に

おける医療収入の増加や、退職金支出の原資となる退職金財団・社団からの交付金収入の増加したことの他、未収入金が増加したことで前年度に比べて全体で40億3,700万円の増加となり、資産の部合計では前年度より27億1,300万円の増加の3,350億9,300万円となりました。

負債の部では、固定負債において2011年度から計上されている退職給与引当金特別繰入16億2,800万円により退職給与引当金の増加がありましたが、当面新規借入金を抑制し、約定通りの返済を行っていることから長期借入金40億7,400万円減少しており、固定負債全体では36億600万円減少することとなりました。また流動負債は医療収入増加に伴う医療経費等に係る未払金が増加したことによって1億3,700万円の増加となり、負債の部合計では787億2,300万円となり、前年度から34億6,900万円の減少となりました。

基本金の部においては、要組入額（注）4,743億6,500万円に対して、施設設備支払に係る未払金等による未組入額（注）298億5,400万円を考慮し、当年度末基本金の部合計は前年度より93億1,400万円増加し、4,445億1,200万円となりました。

当年度の消費支出超過額は31億3,200万円となり、翌年度繰越消費支出超過額は1,881億4,200万円となりました。

以上により、負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計は前年度より27億1,300万円増加の3,350億9,300万円となりました。

2012年度の決算においては、堅調に医療収入が伸びている付属病院群をはじめ、大学部門においても安定した志願者・学生数の確保となり帰属収入が増加した一方、徹底した予算執行管理を実施したことで昨年度に続き帰属収支差額はプラスとなりました。しかしながら、帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入では依然として当期の消費支出を賄うことはできておらず、消費収支差額は31億3,200万円の支出超過となっており、今後も収支改善を推進していく必要があります。

貸借対照表においても既存資産の減価償却が新規取得を上回っていることから固定資産の減少となっておりますが、現在学園が計画的に推し進めている創立75周年事業により、施設設備の拡充を含め、より一層の教育研究環境の充実をはかってまいります。

#### 【用語解説（注）】

---

（基本金、要組入額、未組入額）

主に学校法人が永続的に維持されるために必要不可欠な土地・建物・備品等の固定資産（「要組入額」）のうち、自己資金にて取得したものが「基本金」として貸借対照表上に計上されます。なお、固定資産の取得が借入金によるものや代金が未払のものについては「未組入額」として基本金に計上されていない状態となっており、借入金の返済や未払金の支払を実行することで基本金に組み入れられることとなります。

# 経年比較表

## 資金収支計算書

(単位:百万円)

		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
収入の部	一) 学生生徒等納付金収入	52,142	50,303	50,409	50,378	50,623
	二) 手数料収入	1,087	1,116	1,158	1,156	1,287
	三) 寄付金収入	2,069	1,564	1,667	1,686	1,767
	四) 補助金収入	12,717	12,781	12,811	14,195	13,726
	五) 資産運用収入	1,397	1,174	1,138	1,255	1,251
	六) 資産売却収入	87	1,747	358	173	431
	七) 事業収入	56,014	58,098	60,876	63,009	66,221
	八) 雑収入	4,131	4,822	3,982	3,892	4,909
	九) 借入金等収入	9,104	11,505	9,003	8,003	8,004
	十) 前受金収入	8,519	8,891	8,741	8,665	8,523
	十一) その他の収入	11,874	12,958	14,105	14,952	15,933
	十三) 資金収支調整勘定	△ 21,138	△ 22,189	△ 21,637	△ 22,947	△ 23,993
	十四) 前年度繰越支払資金	44,882	42,426	44,890	44,510	45,230
	<b>合 計</b>	<b>182,885</b>	<b>185,196</b>	<b>187,501</b>	<b>188,927</b>	<b>193,912</b>
支出の部	一) 人件費支出	66,589	65,876	65,767	65,376	67,014
	二) 教育研究経費支出	45,179	45,362	46,164	46,642	47,084
	三) 管理経費支出	8,024	7,599	7,274	7,247	6,777
	四) 借入金等利息支出	1,094	1,027	983	909	814
	五) 借入金等返済支出	11,511	11,510	11,502	11,756	12,088
	六) 施設関係支出	4,994	6,442	3,645	6,560	4,278
	七) 設備関係支出	2,303	6,770	3,435	5,278	4,590
	八) 資産運用支出	667	724	635	1,194	2,878
	九) その他の支出	10,708	11,270	15,560	12,430	13,641
	十二) 資金支出調整勘定	△ 10,610	△ 16,274	△ 11,974	△ 13,695	△ 13,265
	十三) 次年度繰越支払資金	42,426	44,890	44,510	45,230	48,013
	<b>合 計</b>	<b>182,885</b>	<b>185,196</b>	<b>187,501</b>	<b>188,927</b>	<b>193,912</b>

## 消費収支計算書

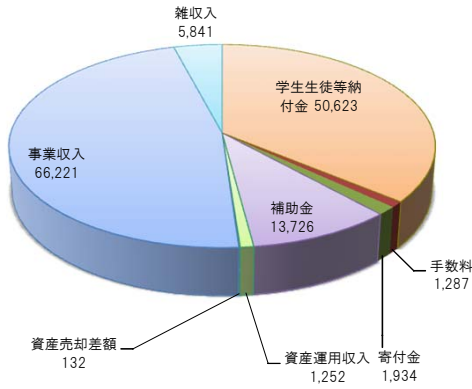
(単位:百万円)

		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
帰属収入の部	一) 学生生徒等納付金	52,142	50,303	50,409	50,378	50,623
	二) 手数料	1,087	1,116	1,158	1,156	1,287
	三) 寄付金	2,290	1,699	1,826	1,801	1,934
	四) 補助金	12,717	12,781	12,811	14,195	13,726
	五) 資産運用収入	1,392	1,169	1,136	1,255	1,252
	六) 資産売却差額	25	1,680	13	90	132
	七) 事業収入	56,014	58,098	60,876	63,009	66,221
	八) 雑収入	4,186	4,822	3,986	3,898	5,841
<b>帰属収入合計</b>		<b>129,853</b>	<b>131,668</b>	<b>132,215</b>	<b>135,782</b>	<b>141,016</b>
<b>基本金組入額</b>		<b>△ 2,628</b>	<b>△ 7,495</b>	<b>△ 8,871</b>	<b>△ 9,910</b>	<b>△ 9,314</b>
<b>消費収入の部合計</b>		<b>127,225</b>	<b>124,173</b>	<b>123,344</b>	<b>125,872</b>	<b>131,702</b>
消費支出の部	一) 人件費	66,488	65,743	65,629	67,015	68,716
	二) 教育研究経費	54,718	55,380	56,035	57,287	56,882
	三) 管理経費	9,081	8,695	8,430	8,485	8,031
	四) 借入金等利息	1,094	1,027	983	909	815
	五) 資産処分差額	2,471	702	966	1,165	302
	六) 徴収不能引当金繰入額	378	187	75	65	88
	七) 予備費	0	0	0	0	0
<b>消費支出の部合計</b>		<b>134,230</b>	<b>131,734</b>	<b>132,118</b>	<b>134,926</b>	<b>134,834</b>
<b>当年度消費支出超過額</b>		<b>7,005</b>	<b>7,561</b>	<b>8,774</b>	<b>9,054</b>	<b>3,132</b>
<b>前年度繰越消費支出超過額</b>		<b>152,616</b>	<b>159,621</b>	<b>167,182</b>	<b>175,956</b>	<b>185,010</b>
<b>翌年度繰越消費支出超過額</b>		<b>159,621</b>	<b>167,182</b>	<b>175,956</b>	<b>185,010</b>	<b>188,142</b>

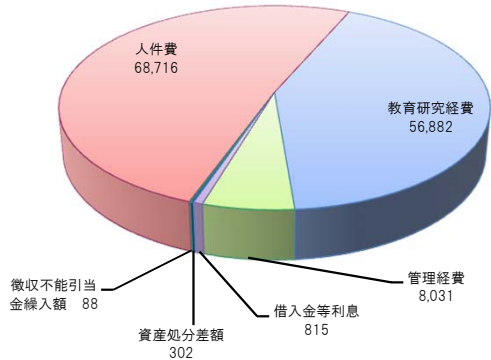
※2008年度の消費支出の部「六」徴収不能引当金繰入額は、「六」徴収不能額です。

2009年度より「六」徴収不能引当金繰入額に表示を統一しています。

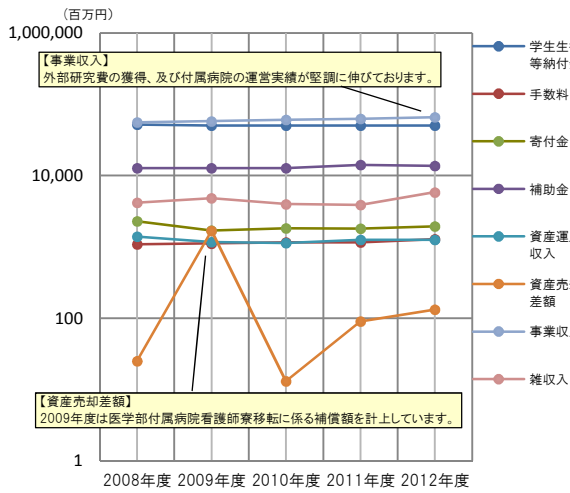
2012年度 帰属収入構成図 (百万円)



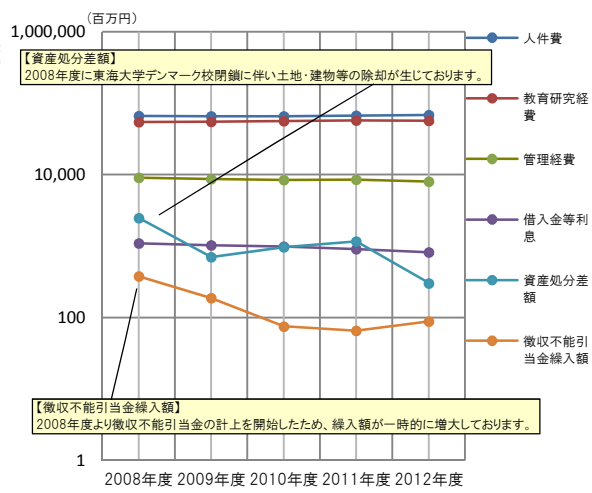
2012年度 消費支出構成図 (百万円)



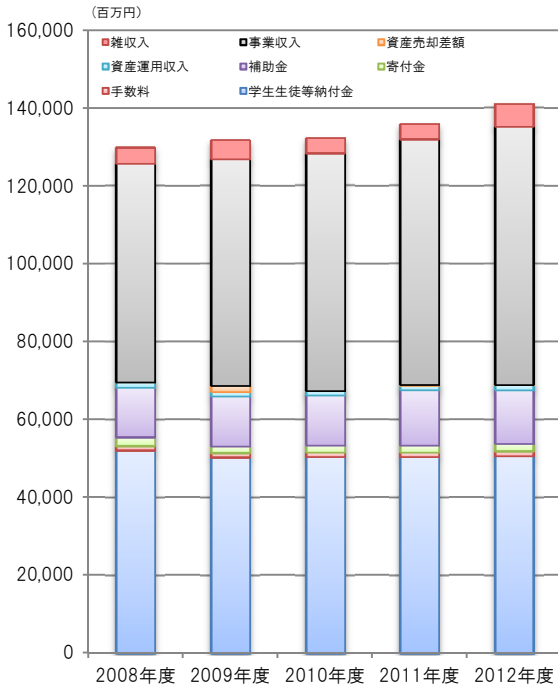
帰属収入科目別経年比較



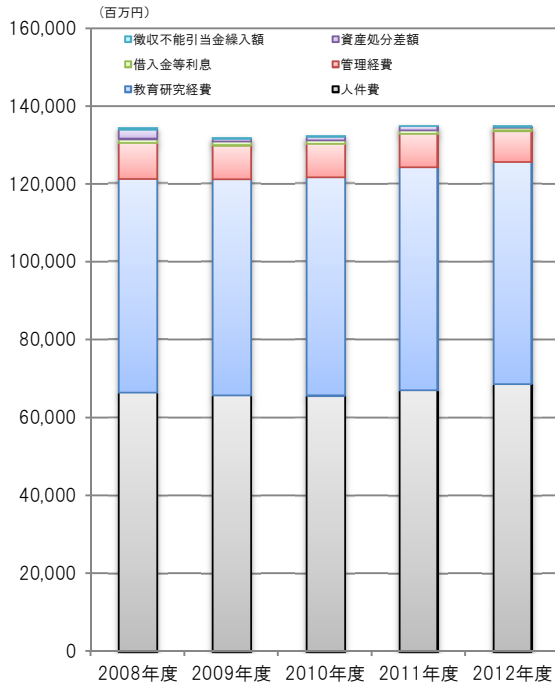
消費支出科目別経年比較



年度別帰属収入構成図



年度別消費支出構成図



## 学校法人東海大学

消費収支分析	算出式(%)	適正水準	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	全国平均値
人件費比率	人件費／帰属収入	↓ (60%)	51.2	49.9	49.6	49.4	48.7	51.3
人件費依存率	人件費／学生生徒等納付金	↓	127.5	130.7	130.2	133.0	135.7	97.6
教育研究経費比率	教育研究経費／帰属収入	↑	42.1	42.1	42.4	42.2	40.3	35.9
管理経費比率	管理経費／帰属収入	↓ (5%)	7.0	6.6	6.4	6.2	5.7	7.1
借入金利息比率	借入金等利息／帰属収入	↓ (1%)	0.8	0.8	0.7	0.7	0.6	0.3
消費支出比率	消費支出／帰属収入	↓	103.4	100.1	99.9	99.4	95.6	96.9
収支差額比率	(帰属収入－消費支出)／帰属収入	↑	△ 3.4	△ 0.1	0.1	0.6	4.4	3.1
消費収支比率	消費支出／消費収入	↓ (80%)	105.5	106.1	107.1	107.2	102.4	107.8
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金／帰属収入	↑	40.2	38.2	38.1	37.1	35.9	52.6
寄付金比率	寄付金／帰属収入	↑↓	1.8	1.3	1.4	1.3	1.4	2.2
補助金比率	補助金／帰属収入	↑↓	9.8	9.7	9.7	10.5	9.7	10.3
経常費補助金比率	経常費補助金／帰属収入	↓	8.4	7.9	8.1	8.2	7.7	—
基本金組入率	基本金組入額／帰属収入	(20%)	2.0	5.7	6.7	7.3	6.6	10.1
減価償却額比率	減価償却額／消費支出	↑↓	7.9	8.3	8.5	8.6	8.2	9.7

↓ 低いほどよい  
 ↑ 高いほどよい  
 ↑↓ どちらともいえない

※ 全国平均値は、日本私立学校振興・共済事業団「平成24年度版 今日の私学財政 大学・短期大学編」より引用しております。

## 貸借対照表経年比較表

資 産 の 部

(単位:百万円)

科 目	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
固 定 資 産	276,438	278,286	272,907	272,458	271,134
有 形 固 定 資 産	237,262	238,205	233,272	232,862	230,644
土 地	67,469	67,407	68,145	68,238	69,242
建 物	124,624	125,884	120,680	120,155	116,658
構 築 物	14,049	13,383	12,559	12,715	12,312
教育研究用機器備品	11,262	13,346	12,155	12,525	13,076
図 書	16,423	16,585	16,726	16,805	16,822
建設仮勘定	2,475	856	2,192	1,478	1,700
その他有形固定資産	960	744	815	946	834
その他の固定資産	39,176	40,081	39,635	39,596	40,490
諸引当資産	22,721	22,498	22,158	22,188	24,329
ソフトウェア	0	717	751	558	400
松前重義記念基金	9,728	10,055	10,398	10,733	10,923
その他固定資産	6,727	6,811	6,328	6,117	4,838
流 動 資 産	55,174	58,843	58,350	59,922	63,959
現 金 預 金	42,426	44,890	44,510	45,230	48,013
未 収 入 金	11,990	13,243	12,833	13,791	14,890
その他流動資産	758	710	1,008	901	1,056
資 産 の 部 合 計	331,612	337,129	331,258	332,380	335,093

負 債 の 部

科 目	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
固 定 負 債	54,332	56,172	53,268	51,396	47,788
長 期 借 入 金	43,720	43,723	40,970	36,885	32,811
長 期 未 払 金	0	1,985	1,987	2,562	2,247
退職給与引当金	10,510	10,377	10,239	11,878	12,652
その他固定負債	102	87	72	71	78
流 動 負 債	27,980	31,723	28,658	30,796	30,935
短 期 借 入 金	3,510	3,502	3,756	4,088	4,078
未 払 金	10,342	13,988	11,661	12,736	13,109
前 受 金	8,519	8,891	8,741	8,665	8,523
その他流動負債	5,609	5,342	4,500	5,307	5,225
負 債 の 部 合 計	82,312	87,895	81,926	82,192	78,723

基 本 金 の 部

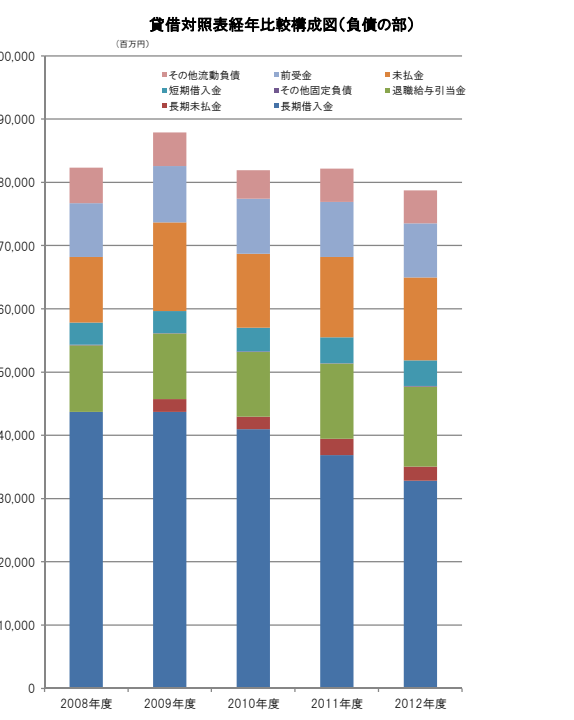
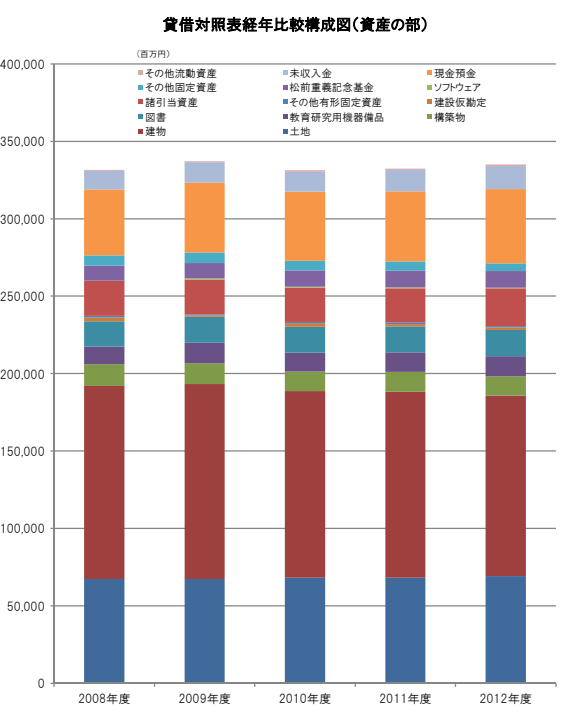
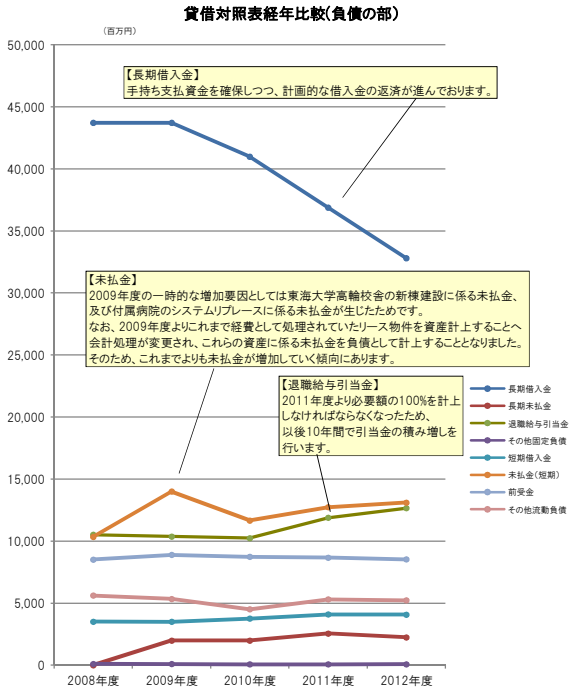
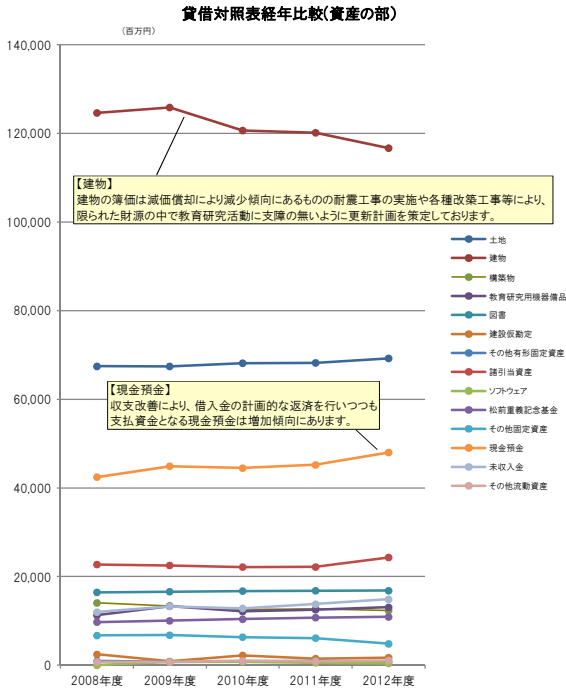
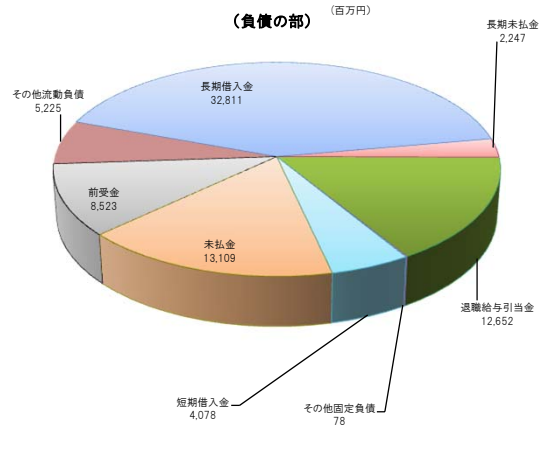
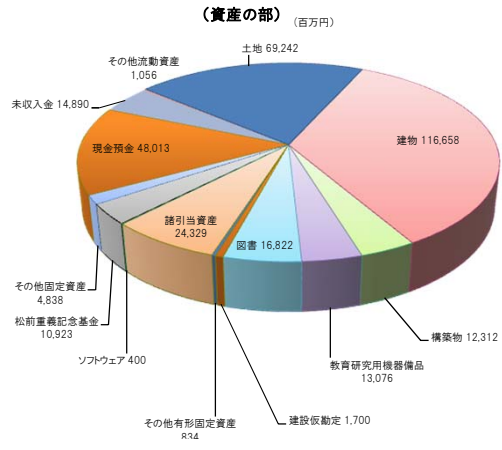
科 目	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
第 1 号 基 本 金	399,818	407,313	416,184	426,095	435,409
第 4 号 基 本 金	9,103	9,103	9,103	9,103	9,103
基 本 金 の 部 合 計	408,921	416,416	425,287	435,198	444,512

消 費 収 支 差 額 の 部

科 目	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
翌年度繰越消費支出超過額	159,621	167,182	175,956	185,010	188,142
消費収支差額の部合計	△ 159,621	△ 167,182	△ 175,956	△ 185,010	△ 188,142

科 目	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	331,612	337,129	331,258	332,380	335,093

## 2012年度 貸借対照表構成図



## 5. 事業報告書



建学の精神	.....	5-1
総長挨拶	.....	5-1
学園の沿革	.....	5-2
設置する学校・学部・学科等	.....	5-5
入学定員及び学生数の状況	.....	5-8
役員の状況	.....	5-10
教職員数	.....	5-10
事業の概要	.....	5-11



## 建学の精神

創立者松前重義は、青年時代に「人生いかに生きるべきか」について思い悩み、内村鑑三の研究会を訪ね、その思想に深く感銘を受けるようになりました。特にデンマークの教育による国づくりの歴史に啓発され、生涯を教育に捧げようと決意して「望星学塾」を開設しました。ここに東海大学の学園の原点があります。

創立者松前はこの「望星学塾」に次の四つの言葉を掲げました。

若き日に汝の思想を培え

若き日に汝の体軀を養え

若き日に汝の智能を磨け

若き日に汝の希望を星につなげ

ここでは、身体を鍛え、知能を磨くとともに、人間、社会、自然、歴史、世界等に対する幅広い視野をもって、一人ひとりが人生の基盤となる思想を培い、人生の意義について共に考えつつ希望の星に向かって生きていこうと語りかけています。

本学園は、このような創立者の精神を受け継ぎ、明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材を育てることにより、「調和のとれた文明社会を建設する」という理想を高く掲げ、歩み続けていきます。

## 総長挨拶



学校法人東海大学  
総長 松前 達郎

## 新しい文明社会へ向かって

今日の文明社会は、高度の科学技術によって支えられています。20世紀の人類はわずか100年の間に月に到達し、原子の火を燃やし、遺伝子という生命の謎を解く鍵を手に入れました。その一方で私たちは、こうした先端技術が、扱い方を間違えれば人類を危機に導きかねないという時代に生きています。あるいは、近い将来100億人を超えるといわれる世界人口の増加は、地球の温暖化や食糧危機を促すといわれています。地球レベルでの環境破壊など、現代の文明社会の歪みも明らかになってきました。また、情報技術革命の進展は私たちの社会や生活のグローバル化を促進させる一方、世界では依然として地域紛争、民族・宗教対立が途絶えることはありません。そして、核軍縮が進んだといわれながらも、いまだ地球上には大量の核弾頭が存在しています。

こうした時代に、私たちは何をなすべきか——神やイデオロギーだけで人々の価値観が形成されていた時代は終わり、多様な価値観が存在するカオスの時代へ入りました。私たちはいま、21世紀初頭という大きな歴史の転換期に生きています。違う価値を排除するのではなく、多様な価値の存在を認めながらお互いが共存していく道を探っていくこと、そこに人と人、国と国、人と自然との新しい関係が生まれてくるはずで、生命科学の発達も、地球上の生きもの全てが同じ一つのいのちから生まれたことを明らかにしつつあります。私たち人類も何百万種といわれる地球上の生きものの一つとして存在しています。それゆえ、地球生命圏の一員としての新しい思想を構築しながら、未来の扉を開いていかなければなりません。

人類は長い歴史の中でさまざまな対立を繰り返してきました。これを克服し、人々が地球市民として心をつなぎ、人と社会と自然が共存できる新しい文明社会の実現をめざすこと——そこに学校法人東海大学の使命があるのです。

## 学園の沿革

- 1942 ・ 12 財団法人国防理工学園を創設
- 1943 ・ 4 航空科学専門学校を静岡県清水市(現静岡市清水区)に開校
- 1944 ・ 4 電波科学専門学校を東京都中野区に開校、電波工業学校併設
- ・ 9 財団法人電気通信工学校(1937年設立)を合併
- 1945 ・ 8 財団法人東海学園に改称
- 8 航空科学専門学校と電波科学専門学校を合併、東海専門学校に改称。本校を静岡県清水市三保、分校を東京都府中市に設置
- 8 電気通信工業学校と電波工業学校を合併、東海工業学校に改称
- 10 東海専門学校を東海科学専門学校に改称
- 1946 ・ 5 旧制大学令により東海大学認可、理工学部、経文学部、予科を静岡県清水市(現静岡市清水区)に設置
- 1948 ・ 4 東海高等学校を開校
- 4 東海大学実業高等学校を静岡県清水市(現静岡市清水区)に開校
- 1949 ・ 4 東海大学第一中学校を静岡県清水市(現静岡市清水区)に開校
- 1950 ・ 2 学制改革により新制大学として開学、工学部、文学部を設置
- 1951 ・ 3 私立学校法施行により学校法人東海大学となる
- 3 東海科学専門学校を廃止
- 4 東海大学高等学校を静岡県静岡市(現静岡市葵区)に開校
- 1952 ・ 4 東海大学(商科)短期大学部を静岡県清水市(現静岡市清水区)に開学
- 4 東海高等学校を東海電波高等学校に改称
- 1955 ・ 1 東海大学工学部を静岡県清水市(現静岡市清水区)より東京都渋谷区に移転
- 4 東海大学付属高等学校を東京都渋谷区に開校
- 1958 ・ 4 東海大学文学部を静岡県清水市(現静岡市清水区)より東京都渋谷区に移転
- 4 東海大学付属幼稚園を静岡県清水市(現静岡市清水区)に開園
- 1959 ・ 4 東海大学付属高等学校に通信教育部を設置
- 4 東海大学工業高等学校を静岡県清水市(現静岡市清水区)に開校
- 4 東海大学高等学校を東海大学第一高等学校に校名変更
- 1960 ・ 5 超短波放送実用化試験局[FM東海(現FM東京)]を放送開始
- 1961 ・ 4 東海大学第二高等学校を熊本県熊本市(現熊本市東区)に開校
- 6 電子計算センターを設置
- 1962 ・ 4 東海大学出版会発足
- 4 東海大学海洋学部を静岡県清水市(現静岡市清水区)に開設
- 5 東海大学海洋調査実習船「東海大学丸」が就航
- 1963 ・ 4 東海大学に大学院工学研究科を設置
- 4 東海大学湘南校舎を神奈川県平塚市に開設
- 4 東海大学第二工学部を東京都渋谷区に開設
- 4 東海大学(東京)短期大学部を東京都港区に開学、電気通信工学科を設置
- 4 東海大学付属相模高等学校を神奈川県相模原市(現相模原市南区)に開校
- 4 東海大学第三高等学校を長野県茅野市に開校
- 4 東海大学付属高等学校通信教育部を独立させ、東海大学附属望星高等学校を開校
- 1964 ・ 4 東海大学に理学部を設置
- 4 東海大学に別科(日本語研修課程)を開設
- 4 東海大学(熊本)短期大学部を熊本県熊本市(現熊本市東区)に開校、電気工学科、機械工学科を設置
- 4 東海大学第四高等学校を北海道札幌市南区に開校
- 1965 ・ 4 東海大学(女子)短期大学部を静岡県静岡市(現静岡市葵区)に開校、生活科学科を設置
- 1966 ・ 4 東海大学に政治経済学部を設置
- 4 東海大学福岡教養部を福岡県宗像郡宗像町(現宗像市)に開設
- 4 東海大学(女子)短期大学部に食物栄養学科を設置
- 4 東海大学第五高等学校を福岡県宗像郡宗像町(現宗像市)に開校
- 1967 ・ 4 東海大学大学院に海洋学研究科を設置
- 4 東海大学に体育学部を設置
- 4 東海大学札幌教養部を北海道札幌市南区に開設
- 4 東海大学付属小学校を静岡県清水市(現静岡市清水区)に開校
- 1968 ・ 1 東海大学海洋調査実習船「東海大学丸二世」が就航
- 4 東海大学大学院に理学研究科を設置
- 4 東海大学に教養学部を設置
- 4 東海電波高等学校を東海大学高輪台高等学校に校名変更
- 1969 ・ 4 東海大学大学院に文学研究科を設置
- 4 東海大学(女子)短期大学部に児童教育学科を設置
- 1970 ・ 5 東海大学海洋科学博物館を静岡県清水市(現静岡市清水区)に開設
- 9 東海大学ヨーロッパ学術センターをデンマーク国コペンハーゲンに開設
- 1971 ・ 4 東海大学大学院に政治学研究科を設置
- 4 東海大学(熊本)短期大学部に建設工学科を設置
- 7 東海大学海洋調査実習船「望星丸」が就航
- 1972 ・ 4 東海大学工芸短期大学を北海道旭川市に開学
- 1973 ・ 4 東海大学大学院に芸術学研究科を設置
- 4 九州東海大学を熊本県熊本市(現熊本市東区)に開学、工学部を設置
- 4 九州東海大学阿蘇校舎を熊本県阿蘇郡長陽村(現阿蘇郡南阿蘇村)に開設

- 4 東海大学付属本田記念幼稚園を神奈川県伊勢原市に開園
- 5 東海大学人体科学博物館を静岡県清水市(現静岡市清水区)に開設
- 6 自由ヶ丘幼稚園を福岡県宗像郡宗像町(現宗像市)に開園
- 1974・4 東海大学医学部を神奈川県伊勢原市に開設
- 4 東海大学沼津教養部を静岡県沼津市に開設
- 4 東海大学医療技術短期大学を神奈川県平塚市に開学、第一看護学科、第二看護学科を設置
- 4 かめ幼稚園を熊本県熊本市に開園
- 1975・2 東海大学医学部付属病院を神奈川県伊勢原市に開院
- 4 東海大学付属高等学校を東海大学付属浦安高等学校に校名変更し、千葉県浦安市に移転
- 1976・4 東海大学大学院に体育学研究科を設置
- 1977・3 東海大学(熊本)短期大学の電気工学科(第一部・第二部)、機械工学科(第一部・第二部)、建設工学科を廃止
- 1977・4 北海道東海大学を北海道旭川市に開学、芸術工学科を設置
- 1978・10 東海大学海洋調査実習船「望星丸二世」が就航
- 1979・4 東海大学大学院に経済学研究科を設置
- 12 東海大学付属高等学校、東海大学実業高等学校を廃止
- 1980・1 東海大学工芸短期大学を廃止
- 4 東海大学大学院に医学研究科を設置
- 4 九州東海大学に農学部を設置
- 4 東海大学付属相模中学校を神奈川県相模原市(現相模原市南区)に開校
- 1982・4 東海大学短期大学部(静岡)に商経学科第一部を設置し、商学科を商経学科第二部に名称変更
- 1983・4 東海大学付属仰星高等学校を大阪府枚方市に開校
- 4 自由ヶ丘幼稚園を東海大学付属自由ヶ丘幼稚園に園名変更
- 12 東海大学医学部付属東京病院を東京都渋谷区に開院
- 1984・4 九州東海大学に大学院農学研究科を設置
- 4 東海大学医学部付属大磯病院を神奈川県中郡大磯町に開院
- 1986・4 東海大学に法学部を設置
- 4 東海大学第四高等学校付属中等部を北海道札幌市南区に開校
- 4 東海大学精華女子高等学校を東海大学付属望洋高等学校に校名変更
- 1988・3 東海大学札幌教養部、沼津教養部を廃止
- 4 北海道東海大学札幌校舎を北海道札幌市南区に開設、工学部、国際文化学部を設置
- 4 東海大学付属デンマーク校(高等部・中学部)をデンマーク国プレスト市に開校
- 1990・3 東海大学福岡教養部を廃止
- 4 東海大学福岡短期大学を福岡県宗像市に開学
- 4 東海大学大学院に法学研究科を設置
- 4 九州東海大学大学院に工学研究科を設置
- 4 北海道東海大学に大学院芸術学研究科を設置
- 4 東海大学高輪台高等学校を東海大学付属高輪台高等学校に校名変更
- 6 学校法人東海高輪学園を合併
- 1991・4 東海大学開発工学部を静岡県沼津市に開設
- 1993・4 北海道東海大学大学院に理工学研究科を設置
- 6 学校法人精華学園を合併
- 10 東海大学海洋調査研修船「望星丸」が就航
- 1995・4 東海大学大学院に開発工学研究科を設置
- 4 東海大学健康科学部を神奈川県伊勢原市に開設
- 1996・4 学校法人東海福岡学園(東海大学付属自由ヶ丘幼稚園)を合併
- 4 東海大学付属仰星高等学校中等部を大阪府枚方市に開校
- 1999・4 東海大学大学院に健康科学研究科を設置
- 4 東海大学短期大学部(高輪)電気通信工学科第一部、同第二部を情報・ネットワーク学科第一部、同第二部に名称変更
- 4 東海大学工業高等学校を東海大学付属翔洋高等学校に校名変更
- 10 東海大学第一高等学校を廃止
- 2000・4 九州東海大学に応用情報学部を設置
- 4 東海大学短期大学部(高輪)情報・ネットワーク学科第一部を情報・ネットワーク学科に名称変更
- 2001・4 東海大学に電子情報学部を設置
- 4 東海大学短期大学部商(静岡)経学科第二部を廃止し、商経学科第一部を商経学科に名称変更
- 2002・3 東海大学医学部付属八王子病院を東京都八王子市に開院
- 12 学校法人東海大学熊本学園を合併
- 2003・4 東海大学短期大学部(静岡)生活科学科を人間環境学科、商経学科を経営情報学科に名称変更
- 4 東海大学第一中学校を東海大学付属翔洋中学校に校名変更
- 4 かめ幼稚園を東海大学付属かめ幼稚園に園名変更
- 5 東海大学短期大学部(高輪)の情報・ネットワーク学科第二部を廃止
- 2004・4 東海大学に専門職大学院を東京都渋谷区に開設し、実務法学研究科を設置
- 4 東海大学医療技術短期大学の第一看護学科を看護学科に名称変更
- 4 東海大学第二高等学校、第三高等学校、第四高等学校、第五高等学校及び第四高等学校付属中等部を東海大学付属第二高等学校、付属第三高等学校、付属第四高等学校、付属第五高等学校及び付属第四高等学校中等部に校名変更
- 2005・3 東海大学医療技術短期大学の第二看護学科を廃止
- 4 東海大学に連合大学院(九州東海大学と北海道東海大学との連合)を開設し、理工学研究科、地球環境科学研究科、生物科学研究科を設置
- 4 北海道東海大学大学院に国際地域学研究科を設置
- 2006・4 東海大学電子情報学部を情報理工学部に変更

- 2007 ・ 4 東海大学第二工学部を情報デザイン工学部に名称変更
- 2007 ・ 4 東海大学専門職大学院に組込み技術研究科を東京都港区に設置
- 2007 ・ 4 東海大学大学院に人間環境学研究科を設置
- 2007 ・ 4 東海大学付属高輪台高等学校中部を東京都港区に開校
- 2008 ・ 5 東海大学短期大学部の人間環境学科を廃止
- 2008 ・ 3 東海大学付属デンマーク校を閉校
- 2008 ・ 4 東海大学国際文化学部、生物理工学部を北海道札幌市南区に開設
- 2008 ・ 4 東海大学芸術工学部を北海道旭川市に開設
- 2008 ・ 4 東海大学情報通信学部を東京都港区に開設
- 2008 ・ 4 東海大学総合経営学部、産業工学部を熊本県熊本市(現熊本市東区)に開設
- 2008 ・ 4 東海大学農学部を熊本県阿蘇郡南阿蘇村に開設
- 2008 ・ 4 東海大学大学院に国際地域学研究科、芸術工学研究科、産業工学研究科、理工学研究科、農学研究科を設置
- 2008 ・ 4 東海大学連合大学院(九州東海大学と北海道東海大学との連合)理工学研究科、地球環境科学研究科、生物科学研究科を東海大学大学院総合理工学研究科、地球環境科学研究科、生物科学研究科に名称変更
- 2008 ・ 4 東海大学付属浦安中学校及び付属相模中学校を東海大学付属浦安高等学校中部及び付属相模高等学校中部に名称変更
- 2008 ・ 5 九州東海大学の応用情報学部、農学部を廃止
- 2008 ・ 9 九州東海大学大学院の工学研究科、農学研究科を廃止
- 2008 ・ 9 九州東海大学大学院を廃止
- 2008 ・ 9 北海道東海大学大学院の芸術学研究科、理工学研究科、国際地域学研究科を廃止
- 2008 ・ 9 北海道東海大学大学院を廃止
- 2009 ・ 4 東海大学付属翔洋中学校を東海大学付属翔洋高等学校中部に校名変更
- 2009 ・ 5 北海道東海大学の国際文化学部を廃止
- 2009 ・ 9 東海大学短期大学部の情報・ネットワーク学科を廃止
- 2010 ・ 4 東海大学に観光学部を設置
- 2010 ・ 9 九州東海大学の工学部を廃止
- 2010 ・ 9 九州東海大学を廃止
- 2010 ・ 9 北海道東海大学の芸術工学部を廃止
- 2010 ・ 9 北海道東海大学を廃止
- 2012 ・ 4 東海大学に生物学部を設置
- 2012 ・ 4 東海大学大学院に情報通信学研究科を設置
- 2012 ・ 4 東海大学付属第二高等学校を東海大学付属熊本星翔高等学校に校名変更
- 2012 ・ 4 東海大学付属幼稚園、東海大学付属小学校を静岡市清水区三保より静岡市清水区折戸に移転

設置する学校・学部・学科等

2012年5月1日現在

大学名	学部名	学科名	(専攻・課程)	
東海大学	文学部	文明学科		
		アジア文明学科		
		ヨーロッパ文明学科		
		アメリカ文明学科		
		北欧学科		
		歴史学科	日本史専攻 東洋史専攻 西洋史専攻 考古学専攻	
		日本文学科		
		文芸創作学科		
		英語文化コミュニケーション学科		
		広報メディア学科		
		心理・社会学科		
		観光学部	観光学科	
		政治経済学部	政治学科	
	経済学科 経営学科			
	総合経営学部	マネジメント学科		
		法学部	法律学科	
	教養学部	人間環境学科	自然環境課程 社会環境課程	
		芸術学科	音楽学課程 美術学課程 デザイン学課程	
		国際学科		
	国際文化学部	地域創造学科		
		国際コミュニケーション学科 デザイン文化学科		
	理学部	数学科		
		情報数理学科		
		物理学科 化学科		
	情報理工学部	情報科学科		
		コンピュータ応用工学科		
	情報通信学部	情報メディア学科		
		組込みソフトウェア工学科		
		経営システム工学科		
		通信ネットワーク工学科		
	工学部	生命化学科		
		応用化学科		
		光・画像工学科		
		原子力工学科		
		電気電子工学科		
		材料科学科		
		建築学科		
		土木工学科		
		精密工学科		
		機械工学科		
		動力機械工学科		
		航空宇宙学科	航空宇宙学専攻 航空操縦学専攻	
		医用生体工学科		
		産業工学部	環境保全学科	
	電子知能システム工学科			
	機械システム工学科			
	建築学科			
	海洋学部	海洋文明学科		
		環境社会学科		
		海洋地球科学科		
		水産学科	生物生産学専攻 食品科学専攻	
		海洋生物学科		
	航海工学科	航海学専攻 海洋機械工学専攻		
	生物学部	生物学科		
	農学部	海洋生物科学科		
		応用植物科学科		
		応用動物科学科		
体育学部	バドミントン学科			
	体育学科			
	競技スポーツ学科			
	武道学科			
	生涯スポーツ学科			
医学部	スポーツレジャーマネジメント学科			
	医学科			
健康科学部	看護学科			
	社会福祉学科			
乗船実習課程				
別科日本語研修課程				

※改組改編等により募集停止となった学部学科等については、掲載していません。

大学院		研究科名	専攻名	博士課程前期 (修士課程)	博士課程後期 (博士課程)
東海大学	専門職大学院	実務法学研究科	実務法律学専攻	法務博士	(専門職)
		総合理工学研究科	総合理工学専攻	—	○
	地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	—	○	
	生物科学研究科	生物科学専攻	—	○	
	文学研究科	文明研究専攻	○	○	
		史学専攻	○	○	
		日本文学専攻	○	○	
		英文学専攻	○	○	
		コミュニケーション学専攻	○	○	
		政治学研究科	政治学専攻	○	○
		経済学研究科	応用経済学専攻	○	○
		法学研究科	法律学専攻	○	○
		人間環境学研究科	人間環境学専攻	○	—
		芸術学研究科	音響芸術専攻	○	—
			造型芸術専攻	○	—
		国際地域学研究科	国際地域学専攻	○	—
		理学研究科	数理科学専攻	○	—
			物理学専攻	○	—
		化学専攻	化学専攻	○	—
			情報通信学研究科	情報通信学専攻	○
	工学研究科	情報理工学専攻	○	—	
		電気電子システム工学専攻	○	—	
		応用理学専攻	○	—	
		光工学専攻	○	—	
		工業化学専攻	○	—	
		金属材料工学専攻	○	—	
		建築学専攻	○	—	
		土木工学専攻	○	—	
		機械工学専攻	○	—	
		航空宇宙学専攻	○	—	
		芸術工学研究科	生活デザイン専攻	○	—
			生産工学専攻	○	—
		産業工学研究科	情報工学専攻	○	—
			社会開発工学専攻	○	—
	開発工学研究科	情報通信工学専攻	○	—	
		素材工学専攻	○	—	
		生物工学専攻	○	—	
		医用生体工学専攻	○	—	
	海洋学研究科	海洋工学専攻	○	—	
		水産学専攻	○	—	
		海洋科学専攻	○	—	
	海洋生物科学専攻	海洋生物科学専攻	○	—	
		電子情報工学専攻	○	—	
	理工学研究科	環境生物科学専攻	○	—	
	農学研究科	農学専攻	○	—	
	体育学研究科	体育学専攻	○	—	
	医学研究科	先端医科学専攻	—	○	
		医科学専攻	○	—	
	健康科学研究科	看護学専攻	○	—	
		保健福祉学専攻	○	—	
大学院					

短期大学名	学 科 名	
東海大学短期大学部 静岡県静岡市葵区	食物栄養学科	
	児童教育学科	
	経営情報学科	
東海大学医療技術短期大学 神奈川県平塚市	看護学科	
東海大学福岡短期大学 福岡県宗像市	情報処理学科	
	国際文化学科	

※改組改編等により募集停止となった学部学科等については、掲載していません。

区分	学校名		
高等学校	東海大学付属浦安高等学校	全日制	千葉県浦安市
	東海大学付属望星高等学校（東京校）	通信制	東京都渋谷区
	（熊本校）		熊本県熊本市東区
	東海大学付属相模高等学校	全日制	神奈川県相模原市南区
	東海大学付属高輪台高等学校	全日制	東京都港区
	東海大学付属翔洋高等学校	全日制	静岡県静岡市清水区
	東海大学付属熊本星翔高等学校	全日制	熊本県熊本市東区
	東海大学付属第三高等学校	全日制	長野県茅野市
	東海大学付属第四高等学校	全日制	北海道札幌市南区
	東海大学付属第五高等学校	全日制	福岡県宗像市
	東海大学付属仰星高等学校	全日制	大阪府枚方市
東海大学付属望洋高等学校	全日制	千葉県市原市	
中等部	東海大学付属浦安高等学校中等部		千葉県浦安市
	東海大学付属相模高等学校中等部		神奈川県相模原市南区
	東海大学付属高輪台高等学校中等部		東京都港区
	東海大学付属翔洋高等学校中等部		静岡県静岡市清水区
	東海大学付属第四高等学校中等部		北海道札幌市南区
	東海大学付属仰星高等学校中等部		大阪府枚方市
小学校	東海大学付属小学校		静岡県静岡市清水区
幼稚園	東海大学付属幼稚園		静岡県静岡市清水区
	東海大学付属本田記念幼稚園		神奈川県伊勢原市
	東海大学付属自由ヶ丘幼稚園		福岡県宗像市
	東海大学付属かもめ幼稚園		熊本県熊本市中央区
海外法人	ハワイ東海インターナショナルカレッジ		アメリカ合衆国ハワイ州
連携校	東海大学甲府高等学校	学校法人東海大学甲府学園	山梨県甲府市
提携校	東海大学山形高等学校	学校法人東海山形学園	山形県山形市
	東海大学菅生高等学校	学校法人菅生学園	東京都あきる野市
	東海大学菅生高等学校中等部		

# 入学定員及び学生数の状況

2012年5月1日現在

学校名	区 分		入学定員	収容定員	現員	
東 海 大 学	学部計		6,833	28,292	28,598	
	文学部		930	3,674	4,342	
	観光学部		195	595	709	
	政治経済学部		450	1,800	2,176	
	総合経営学部		200	800	447	
	法学部		300	1,200	1,442	
	教養学部		330	1,320	1,582	
	国際文化学部		260	890	826	
	理学部		320	1,280	1,560	
	情報理工学部		200	800	845	
	情報通信学部		320	1,280	1,439	
	工学部		1,460	5,690	5,787	
	情報デザイン工学部		0	0	11	
	芸術工学部		0	480	125	
	産業工学部		300	1,200	299	
	開発工学部		0	360	121	
	海洋学部		530	2,320	1,968	
	生物理工学部		0	600	324	
	生物学部		140	140	191	
	農学部		230	920	1,031	
	体育学部		400	1,600	1,963	
	医学部		113	643	676	
	健康科学部		155	700	734	
	乗船実習課程		30	30	20	
	別科日本語研修課程		200	200	41	
	専門職大学院		30	130	51	
	実務法学研究科		法務博士(専門職)	30	100	38
	組込み技術研究科		組込み技術修士(専門職)	0	30	13
	大学院計			607	1,380	1,096
	総合理工学研究科		博士課程	35	105	51
	地球環境科学研究科		博士課程	10	30	10
	生物科学研究科		博士課程	10	30	3
	文学研究科		博士課程(前期)	36	72	61
			博士課程(後期)	18	54	12
	政治学研究科		博士課程(前期)	10	20	4
			博士課程(後期)	5	15	4
	経済学研究科		博士課程(前期)	10	20	3
			博士課程(後期)	5	15	1
	法学研究科		博士課程(前期)	10	20	2
			博士課程(後期)	5	15	1
	人間環境学研究科		修士課程	10	20	15
	芸術学研究科		修士課程	8	16	24
	国際地域学研究科		修士課程	4	8	4
	理学研究科		修士課程	32	64	86
	情報通信学研究科		修士課程	30	30	25
	工学研究科		修士課程	176	390	529
	芸術工学研究科		修士課程	4	8	3
	産業工学研究科		修士課程	24	48	7
	開発工学研究科		修士課程	26	52	10
	海洋学研究科		修士課程	40	80	58
理工学研究科		修士課程	12	24	8	
農学研究科		修士課程	12	24	18	
体育学研究科		修士課程	10	20	41	
医学研究科		修士課程	10	20	7	
		博士課程	35	140	77	
健康科学研究科		修士課程	20	40	32	

学校名	学科名	入学定員	収容定員	現員
東海大学短期大学部	学科計	280	560	422
	食物栄養学科	100	200	138
	児童教育学科	100	200	227
	経営情報学科	80	160	57
東海大学医療技術短期大学	看護学科	80	240	269
東海大学福岡短期大学	学科計	200	400	162
	情報処理工学	100	200	60
	国際文化学科	100	200	102

区分	学校名	区 分	入学定員	収容定員	現員
高等学校	東海大学付属浦安高等学校	全日制	370	1,110	1,231
	東海大学付属望星高等学校	通信制	1,000	3,000	1,984
	東海大学付属相模高等学校	全日制	600	1,800	1,733
	東海大学付属高輪台高等学校	全日制	420	1,260	1,283
	東海大学付属翔洋高等学校	全日制	360	1,080	753
	東海大学付属熊本星翔高等学校	全日制	400	1,200	1,209
	東海大学付属第三高等学校	全日制	360	1,080	787
	東海大学付属第四高等学校	全日制	320	1,000	735
	東海大学付属第五高等学校	全日制	320	960	675
	東海大学付属仰星高等学校	全日制	400	1,120	1,041
	東海大学付属望洋高等学校	全日制	370	1,110	948
中学校	東海大学付属浦安高等学校中等部		120	360	425
	東海大学付属相模高等学校中等部		160	480	550
	東海大学付属高輪台高等学校中等部		80	240	270
	東海大学付属翔洋高等学校中等部		120	360	350
	東海大学付属第四高等学校中等部		80	240	126
	東海大学付属仰星高等学校中等部		120	360	304
小学校	東海大学付属小学校		60	360	143
幼稚園	東海大学付属幼稚園		65	165	76
	東海大学付属本田記念幼稚園		60	240	211
	東海大学付属自由ヶ丘幼稚園		80	320	320
	東海大学付属かもめ幼稚園		110	330	308

※小・中学校は学則定員、幼稚園は認可定員を記載しております。

## 役員状況

### 《 役員 》

2012年5月1日現在

	氏名	兼務の状況	常勤・非常勤の別
理事数 定数18～21名 現員 19名	(理事長)	松前達郎 (学)東海大学総長、(学)国際武道大学理事長、(学)東海大学甲府学園理事	常勤
	(副理事長)	松前義昭 東海大学情報技術センター所長、(学)国際武道大学副理事長	〃
	(常務理事)	蟹江秀明 (学)東海大学甲府学園理事	〃
		木本雄一 (学)東海大学甲府学園理事	〃
		高野二郎 東海大学学長	〃
		安達建夫 東海大学副学長(事務担当)、同事務部部長	〃
		杉一郎 (学)東海大学初等中等教育部部長	〃
		田中康夫 東海大学副学長(企画・キャンパス連携担当)	〃
	(理事)	灰田宗孝 東海大学医療技術短期大学学長	〃
		大金真人 東海大学附属相模高等学校・中等部校長	〃
		遠藤武人 (学)東海大学甲府学園理事長	非常勤
		後藤亘 株式会社エフエム東京取締役相談役	〃
		平山正剛 弁護士、(学)国際武道大学理事	〃
		内田裕久 東海大学教授	常勤
尾郷良幸 (株)霞ヶ関東海倶楽部代表取締役社長、(学)国際武道大学副理事長、(学)調布学園理事		非常勤	
兼弘法子 (学)東海大学評議員		〃	
幕内博康 東海大学医学部附属病院本部本部長		常勤	
山下泰裕 東海大学副学長(スポーツ・社会連携担当)、同体育学部学部長		〃	
後藤俊郎 (学)東海大学理事室室長	〃		
監事数 定数2～4名/現員2名	(監事)	横堀禎二 (学)東海大学甲府学園監事(非常勤)	非常勤
		淵上貫之 弁護士	〃

### 《 評議員 》

(評議員) 40名 (2012年5月1日現在)

## 教職員数

	教員	職員
法人	12	71
大学	1,930	1,038
短期大学	73	42
高校	572	59
中学校	129	5
小学校	21	2
幼稚園	47	5
病院	0	2,913
合計	2,784	4,135

※ 教職員数は2012年5月1日現在

# 2012 年度事業の概要

## 1. 高等教育機関

### 【教育機関事業の推進】

#### (1) 2012 年度実施

##### 1) 東海大学北海道キャンパスの改組転換（第Ⅲ期教育改革）

第Ⅲ期教育改革の一環として、東海大学北海道キャンパスの改組転換について、以下の内容で実施しました。

##### 学部設置

「生物学部」（北海道札幌市南区）

「生物学科」 (入学定員 70 名 学位：学士 [理学])

「海洋生物科学科」 (入学定員 70 名 学位：学士 [理学])

##### 学科設置

「国際文化学部デザイン文化学科」 (入学定員 70 名 学位：学士 [教養学])

##### 学科定員変更

「国際文化学部国際コミュニケーション学科」

(入学定員 100 名 ⇒ 入学定員 80 名)

##### 学部募集停止

「芸術工学部（くらしデザイン学科、建築・環境デザイン学科）」

「生物理工学部（生物工学科、海洋生物科学科、生体機能科学科）」

##### 2) 東海大学医学部の定員増

地域医療を担う医師の養成を図るために、神奈川県の実施する地域医療再生計画と連携し、入学定員を増員しました。

「医学部」（神奈川県伊勢原市）

「医学科」 (入学定員：110 名 ⇒ 入学定員：113 名)

(注)3 名の増員は、2012 年度から 2019 年度までの期限限定の措置。

##### 3) 東海大学大学院の改編（第Ⅲ期教育改革）

第Ⅲ期教育改革の一環として、また情報通信学部の卒業生に対して専門教育の機会を提供するため、以下の内容で実施しました。

##### 研究科設置

「情報通信学研究科」（東京都港区）

「情報通信学専攻（修士課程）」 (入学定員 30 名 学位：修士 (情報通信学))

##### 研究科募集停止

「専門職大学院組込み技術研究科（組込み技術専攻）」

##### 専攻募集停止

「工学研究科情報通信制御システム工学専攻」

「工学研究科経営工学専攻」

## (2) 2013 年度実施予定

### 1) 東海大学九州キャンパスの改組転換（第Ⅲ期教育改革）

第Ⅲ期教育改革の一環として、東海大学九州キャンパスの改組転換について、以下の内容で実施することになりました。

#### 学部設置

「経営学部」（熊本県熊本市東区）	
「経営学科」	（入学定員 150 名 学位：学士〔経営学〕）
「観光ビジネス学科」	（入学定員 80 名 学位：学士〔経営学〕）
「基盤工学部」（熊本県熊本市東区）	
「電気電子情報工学科」	（入学定員 80 名 学位：学士〔工学〕）
「医療福祉工学科」	（入学定員 60 名 学位：学士〔工学〕）

#### 学部募集停止

「総合経営学部（マネジメント学科）」	
「産業工学部（環境保全学科、電子知能システム工学科、機械システム工学科、建築学科）」	

### 2) 東海大学体育学部の定員変更（第Ⅲ期教育改革）

九州キャンパス改組に合わせて、東海大学体育学部の以下の学科について、定員を変更することになりました。

「体育学部」（神奈川県平塚市）	
「体育学科」	（入学定員 90 名 ⇒ 入学定員 100 名）
「競技スポーツ学科」	（入学定員 120 名 ⇒ 入学定員 130 名）
「武道学科」	（入学定員 50 名 ⇒ 入学定員 55 名）
「生涯スポーツ学科」	（入学定員 90 名 ⇒ 入学定員 100 名）
「スポーツ・レジャーマネジメント学科」（入学定員 50 名 ⇒ 入学定員 55 名）	

### 3) 東海大学健康科学部看護学科の定員変更

東海大学健康科学部看護学科について、定員を変更することになりました。

「健康科学部」（神奈川県伊勢原市）	
「看護学科」	（入学定員 70 名 編入学定員 30 名 ⇒ 入学定員 75 名 編入学定員 20 名）

### 4) 東海大学大学院研究科及び東海大学短期大学部学科の募集停止

東海大学大学院芸術工学部研究科及び東海大学短期大学部経営情報学科の学生募集を停止することになりました。

#### 研究科募集停止

「芸術工学研究科（生活デザイン専攻）」

#### 短期大学部学科募集停止

「短期大学部経営情報学科」

## 【その他高等教育機関における主な活動】

- (1) 全日本学生柔道優勝大会で男子が史上初の 5 連覇、全日本学生柔道体重別団体優勝大会で男子が 2 連覇を達成

体重無差別の団体戦で競う全日本学生柔道優勝大会が6月23日と24日に日本武道館で開催され、男子柔道部が史上初の5連覇を達成し、単独最多優勝回数を18と更新しました。

また、10月27日と28日に兵庫県・尼崎市記念公園ベイコム総合体育館で開催された、全日本学生柔道体重別団体優勝大会(男子14回、女子4回)で、男子柔道部が2連覇を達成。通算7回目の優勝を果たしました。



史上初の5連覇を達成した男子柔道部

## (2) 第9回ラベンダーコンサートを開催

札幌キャンパスでは、7月14日に第9回「ラベンダーコンサート」を開催しました。これは、日本におけるラベンダー栽培発祥の地である札幌市南沢地区をアピールすることを目的に毎年実施しているものです。本キャンパスでは、2002年度から学内でラベンダーを植栽する「ラベンダーキャンパス化計画」をスタート。これまでにおよそ3600株を植えており、毎年この時期に花の見ごろを迎えています。吹奏楽部の学生らは満開のラベンダーをバックに、この日のために準備してきた「ディズニー・ファンティイリュージョン!」や「吹奏楽のための綺想曲『じゅげむ』」など7曲を披露。会場に集まった約350名の地域住民はラベンダーの香りを楽しみながら、演奏に聞き入っていました。

## (3) 「サソール・ソーラーチャレンジ・サウス・アフリカ2012」の優勝

南アフリカ共和国で開催された代替燃料車による世界最長の自動車レース「サソール・ソーラーチャレンジ・サウス・アフリカ2012」で、東海大学チャレンジセンターの「ライトパワープロジェクト」ソーラーカーチームが優勝しました。

同大会は、国際自動車連盟(FIA)が公認した代替燃料車によって競われる自動車レースです。今回は南アフリカ共和国の首都・プレトリアをスタートし、ケープタウンからセツンダを経由して再びプレトリアに戻るという同国をほぼ一周する4,632kmのコースが設定され、標高差約2,000mに及ぶアップダウンや急カーブが出現する大変厳しいものとなりました。大会は9月18



現地の住民から声援を受けるソーラーカー「Tokai Challenger」

日から28日まで、日本、インド、南アフリカから14チームが出場して開催され、本学チームはパナソニック株式会社や東レ株式会社を始めとした多数の企業の協力を受け、学生たちが製作したマシン「Tokai Challenger」で参戦。総走行時間71時間13分、2位に合計で18時間42分の大差をつけて優勝しました。今大会の優勝は2008年、2010年に続き3連覇となり、2009年、2011年のオーストラリア大会を含めると国際大会5連覇を達成したことになります。

## (4) 九州キャンパス男子バスケットボール部が、第19回全九州大学バスケットボールリーグ戦で初優勝

九州キャンパス(熊本、阿蘇両キャンパス)の男子バスケットボール部が、8月31日から10月8日まで開催された第19回全九州大学バスケットボールリーグ戦で初優勝を飾りました。なお、同リーグ戦で熊本県にキャンパスのあるチームが優勝するのは初めてです。

#### (5) 吹奏楽部研究会が全日本吹奏楽コンクールで金賞を受賞

吹奏楽研究会が10月27日に栃木県の宇都宮市文化会館で開催された第60回全日本吹奏楽コンクール（大学の部）で初の金賞を受賞しました。この大会には、全国11支部の182校の参加校の中から選ばれた12校が出場。本学は2年連続5回目の出場で、初の快挙を成し遂げました。吹奏楽研究会は1960年に設立。吹奏楽コンクールなどの大会での金賞を目指すかわら、入学式や学位授与式などの大学の式典のほか、運動部の応援や地域のイベントなど年間50件以上の依頼演奏で活躍しています。



初の金賞を受賞した吹奏楽研究会

#### (6) 南阿蘇村と協力してブラックベリーを商品化

農学部が10月23日に阿蘇キャンパスで、熊本県阿蘇郡の南阿蘇村と協力して栽培したブラックベリーを使ったアイスクリームの試食会を開催し、学生ら約60名が参加しました。本製品は、ミルクとブラックベリーを混ぜ合わせたアイスに、果実を加工したソースと甘露煮が添えられています。農学部ではブラックベリーの特産化を目的に、2009年から交流協定を結ぶ同村の農家をサポートし、試験栽培に取り組んできました。この研究は教育・研究の成果を活用した商品開発を支援する、学校法人東海大学総合研究機構の「商品開発助成」事業にも採択されています。本製品は10月27日と28日に、あそ望の郷くぎの（熊本県阿蘇郡）で開催された「あそのみなみのあきまつり」で販売されました。

#### (7) 先端技術コミュニティ ACOT が ET ロボコンの全国大会に初出場

熊本キャンパスで活動するチャレンジセンターの「先端技術コミュニティ ACOT」が11月14日、パシフィコ横浜で開催された「ET ロボコン 2012 チャンピオンシップ大会」（主催：一般社団法人組込みシステム技術協会）に初出場しました。ET ロボコンは、組込みシステムの開発と工学分野の知識を深める機会を提供することを目的に毎年開催されているもの。2つの車輪で自律走行するロボットのソフトウェアを改良し、規定の2コースを走りタイムを競う「走行競技」とソフトウェアの設計内容を評価する「モデル審査」の総合ポイントを競います。



ET ロボコン全国大会での走行風景

今回は全国11カ所で行われた地区大会で上位に入った40チームが出場しました。

ACOTは活動を開始した2008年度からETロボコンに参戦。今年9月の九州地区大会では、“安定性能とスピードの両立”を実現して4位入賞を果たし、全国大会への出場権を得ました。本大会では、一般企業の研究者なども参加する高いレベルの中で2度の走行に臨みましたが、いずれも競技前半でコースアウト。総合37位の成績で大会を終えました。

#### (8) 湘南キャンパス男子バスケットボール部がインカレで6年ぶり3度目の優勝

11月19日から25日まで代々木第二体育館などで開催された第64回全日本大学バスケットボール選手権大会で、本学の九州キャンパスチームを含め、全国各地域から32チームが参加し、湘南キャンパス男子バスケットボール部が6年ぶり3度目の優勝を飾りました。

## (9) 海洋学部開設 50 周年記念式典を開催しました

海洋学部では 11 月 23 日に、清水キャンパスで学部開設 50 周年記念式典を開催しました。本学部は、海洋分野に関する日本唯一の総合学部として 1962 年に開設されました。当初より、海洋の総合的かつ平和的な開発と利用による豊かな社会を築くことを目指して時代の変化に合わせた改革を進め、2011 年には独自の新たな教育システムとして海洋フロンティア教育センターを設置し、社会人の基礎を身につけ海運や物流などで活躍する人材の育成を目指す「海事ビジネス経営プログラム」と海洋スポーツの振興を担うリーダーを養成する「海洋スポーツ総合プログラム」を展開しています。

## (10) スキー部がインカレの男子総合で 2 連覇を達成

札幌キャンパススキー部が、2 月 20 日から 25 日まで岩手県八幡平市で開催された第 86 回全日本学生スキー選手権大会に出場。男子は総合 2 連覇を達成し、女子は総合 3 位に入賞しました。



札幌キャンパススキー部

## (11) 『日本産魚類検索 全種の同定 第三版』が出版

東海大学出版会の新刊『日本産魚類検索 全種の同定 第三版』（中坊徹次編）が、2 月 26 日に刊行されました。第二版刊行（2000 年）以降に報告された新種、初記録種、学名の再検討、分類体系の変更による情報を収録。最新かつ最高レベルの知見を提供し、約 350 種が増えて、359 科 4210 種類を掲載しています。

魚類各種の特徴が図によって示されている本書は、“魚類を知りたい人の最高の座右の書”とも呼ばれ、天皇陛下を含め 19 名の研究者が共同執筆しています。このうち、天皇陛下が執筆された「ハゼ亜目」は、352 ページに 9 科 128 属 518 種を掲載しています。2000 年の第二版刊行以後、約 12 年の間に報告された新種などを収録。この本を読めば日本産魚類全体を見渡すことができます。

## 【競争的資金などの獲得による教育研究の推進】

### (1) 文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」

中部圏の地域・産業界との連携を通じた教育改革力の強化

【東海大学短期大学部（共同事業）：2012 年度採択】

本取り組みは、中部圏 23 大学（5 短期大学を含む）が、アクティブラーニングを活用し、地域・産業界との連携強化を通して、教育機関として自ら前に踏み出し、考え抜き、チームで働き、チャレンジすることで教育改革力の向上を図るものです。個々の大学は、それぞれの教育使命や地域に立脚した方法で、(1)アクティブラーニングを活用した教育力の強化、(2) 地域・産業界との連携力の強化、という 2 つのテーマに基づいた教育改善を行います。次に、4 チームに編成されたチーム内での連携 FD(研修会)により、成果や課題を共有します。さらに、それらの成果などを中部圏産学連携会議において検証するという三段階方式の取り組みを行います。このうち、静岡チーム 4 大学（静岡大学、静岡理工科大学、静岡英和学院大学短期大学部、東海大学短期大学部）は、静岡県を舞台として、教育力の向上、産業界との連携力の強化を図り、現在、地域社会や産業界から求められている有為な人材の育成を積極的に行います。

2012 年度本学は、静岡チームの 1 校として、アクティブラーニングを活用したワークショップ、授業、インターンシップの展開により、地域社会、産業界から求められている豊かな人間性

と幅広い社会性、そして着実な専門性を身に付けた人材の育成を目指しました。また、これらの学びを学生が客観的に捉え、より自己の能力向上を図ることが出来るように、リフレクションプログラム（振り返り）やアセスメント（評価）プログラムを導入し、本取り組みで学んだ学生が自発的かつ継続的な学びを積極的に展開できるようにしました。本取り組みでは、これらの活動を通して、今後の変化に対応するための基礎力と将来に活路を見いだす原動力を養い、地域社会や産業界から高く評価される有為な人材の育成を目指しています。

## (2) 文部科学省「医師不足解消のための大学病院を活用した専門医療人材養成（大学病院間の相互連携による優れた専門医等の養成）」

地域躍動型専門医養成一貫教育プログラム

【東海大学医学部付属病院（共同事業）：2008年度採択】

本取り組みは、大学病院と地域医療を支える教育基幹病院が連携することにより、高度医療・地域医療・臨床研究の研修の質における大学・地域間格差の改善を効率的に図り、高度な専門知識や診療技術の修得とともに科学的思考能力を有する質の高い専門医師を育成することを目的としています。

慶應義塾大学を申請代表として、7大学病院が参画し進めています。最終年度となる2012年度もシンポジウム「若き医師に必須の遺伝カウンセリング講座」を開催するなど、順調に進捗しました。2008年度からの5年間、開催したシンポジウムを通して国際的な感染症対策、プロフェッショナルリズム、遺伝子診断など、研修医のみならず教員（指導医）のファカルティ・ディベロップメント活動が実施でき、また、シミュレーターやトレーニング機器などの整備による環境整備も進み、専門医養成プログラムのいっそうの充実を図ることができました。

## (3) 文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」

高度がん医療開発を先導する専門家の養成

【東海大学医学研究科（共同事業）：2012年度採択】

本取り組みは基礎研究とトランスレーショナル研究（TR）を推進し、新たな治療を開発できるシステムの構築と、それを実際に行う能力を持つ人材を育成することを目的としています。更に、がん患者のクオリティ・オブ・ライフ（QOL）を向上するためのさまざまなアプローチとそれを実行するための人材育成、そして患者のみならず家族や医療者に対する精神的な支援、地域間での医療資源量及び質の格差の是正など、がん医療が高度化することによって新たに生じる問題を解決することも、重要なミッションとして掲げています。慶應義塾大学を申請代表として、10大学15研究科が参画し進めています。

2012年度は、本取り組みの主眼である、基礎研究とTR研究の促進、がん患者のQOL向上、地域間格差の解消を目指した大学院コース及び各種インテンシブコースの開講と、次年度開講のための準備を各研究科において行いました。また連携できる教育プログラムを整備し、共同事業体で共有できるコースや講義の周知を図りました。

## (4) 文部科学省「大学病院における医師等の勤務環境の改善のための人員の雇用」

東海大学病院業務改善推進事業

【東海大学医学部付属病院：2012年度採択】

本取り組みは、大学病院のような急性期病院において、医師・看護師などの業務負担の軽減・支援を行う取り組みで、具体的には、独自の教育システムにより育成したメディカルセクレタリーを各所に配置し、従来、医師や看護師などが行ってきた事務的な業務を担当することで、医師や看護師の業務負担を軽減し診療・治療・看護に専念することができるようにするものです。本院の独自の業務は、「メディカルセクレタリー業務基準」に定めており、メディカルセクレタリー

一教育システムにより周知・徹底しています。また、診療情報管理士・薬剤師・臨床工学士・看護助手・医事課職員・病棟事務などにおいて、業務分掌によりその役割を明確にし、分担を推進することによって医師・看護師などの業務効率の上昇、医療の質的向上を図るものです。

2012年度もメディカルセクレタリーを雇用し、「メディカルセクレタリー教育システム」による教育を行いました。「メディカルセクレタリー業務基準」に基づき、主に外来部門における業務分担を図りました。

(5) 文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」

糖鎖科学による免疫・脳神経・膜機能解析への新たな展開

【東海大学：2009年度採択】

本事業は、「糖鎖科学による免疫機能解析」「糖鎖科学による脳神経・膜機能解析」「ケミカルグライコバイオロジーによる新展開」の3テーマを設定し、免疫・脳神経・膜機能における糖鎖の機能解析を、本学が国内外に誇るケミカルバイオロジー研究と積極的に融合させ、新たな発展を目指すプロジェクトです。すでに機能解析の2グループには、特定の免疫細胞の人為的コントロール、神経細胞に対する新しい機能分子の発見につながる萌芽があり、免疫、脳機能に新たな視点を導入できると期待されています。また、機能解析グループと化学合成グループとの連携によって、他の研究機関に見られない融合研究が展開でき、機能の実用化に道が開けることも期待されています。

2012年度も本事業発展のための取り組みを推進しました。

(6) 文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」

疾患モデル動物とリード化合物を組み合わせた迅速な前臨床試験を実現する創薬研究拠点形成

【東海大学：2009年度採択】

本事業は、これまで本学で確立してきた多くの疾患モデル動物、新しい効率的遺伝子操作動物作成技術、標的タンパク質の特定部分に作用しうる化合物の効率的スクリーニング法、造腫瘍効果のin vivoスクリーニング法、また大学院医学研究科で推進している臨床試験などに必須の生命倫理及び医療倫理に基づく教育と研究など、本学医学部もしくは医学研究科の特徴や成果を結集し、総合的な創薬への道筋を推進する計画です。これまでの実績から、技術と成果の結集で、迅速性が確保される意義は大きいものとなっています。対象とする疾患やタンパク質によって難易度が異なると予想されるため、経緯を見ながら実現度の高い対象を選別し、優先的に検討することにより、数種の確実な成功例へ結実させるプロジェクトです。

2012年度も本事業発展のための取り組みを推進しました。



東海大学公開合同シンポジウム

(7) 文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」

がん幹細胞ニッチを標的とした新規治療法の開発

【東海大学：2012年度採択】

本事業は、がんの維持と進展に関わるがん幹細胞ニッチを標的とした新規治療法の開発を行うもので、具体的には、①がん幹細胞のニッチからの離脱を促す PAI-1 阻害薬、②ニッチ構成分子である Notch ligand を標的とした創薬、③新規がん幹細胞分子を標的としたペプチドワクチン療法の開発、④新規治療標的分子の探索を目指しています。本研究により、がんの発症、進行、

再発の機構を明らかにし、創出される新規治療は、がんの治療、進展の制御によりクオリティ・オブ・ライフ（QOL）を向上させ、国民の健康福祉に貢献できると期待されています。

2012年度は採択初年度として本事業発展のための取り組みを推進しました。

(8) 文部科学省「**理数学生応援プロジェクト**」

社会の多様な場で活躍するサイエンス・マイスター育成プログラム

【東海大学：2010年度採択】

本取り組みでは、高等学校でSSH・SPPなどのプログラムを経験してきた問題意識の高い学生や成績優秀な学生を早期に発見し、技術者・研究者としての知見に基づく企画力・分析力・表現力・点検・改善力、いわゆる研究分野におけるPDCAを身につけたグローバル社会の多様な場で活躍できる将来有為な科学技術者・研究者となりうる「サイエンス・マイスター」を育成することを目的としています。

2012年度も学部横断的な対応が可能な理学部の基礎教育研究室と、学長室、入試センター、研究支援・知的財産本部並びに関連する理工系学部が連携した運営体制の下、2010年度から開講している「サイエンス・マイスター副専攻」の開講科目を増やした他、次年度開講の「サイエンス海外研修」の開講準備など、順調に進捗しました。

(9) 文部科学省「**科学技術振興調整費 若手研究者の自立的な研究環境整備促進プログラム**」  
国際的研究者を育て得るメンター研究者養成

【東海大学：2010年度採択】

本事業は、先端分野における国際的研究をおこなう能力に加え、自らをロールモデルとした後進の研究者を育成するメンターとなりうる人材養成を行うものです。テニュアトラックの期間は創造科学技術研究機構に属し、理想的な環境の中で自己能力の発展に邁進し、テニュア取得後は、学部・研究科に所属しつつ、大学奨励教員として本学に特徴ある研究を通じて次世代育成のための環境作りに貢献します。本事業を契機として全学的システム改革を行い、私立大学における若手研究者育成のモデルを目指します。

2012年度は本学で6人目、理工系では初となるテニュアトラック教員1名が着任した他、2013年度採用のための国際公募を海洋分野で行うなど、順調に学内に広がってきています。また、テニュアトラック教員着任セミナーやシンポジウムも開催し、学内外への本制度の周知を図ると共に、若手研究者の研究発表を行いました。また、既に採用されていたテニュアトラック教員が次々と外部研究費を獲得するなど、順調に進捗しています。

(10) 経済産業省「**アジア人財資金構想（高度専門留学生育成事業）**」

原子力発電分野における高度人財育成プログラム

Global Initiative on Asian Specialized Nuclear Personnel、Tokai University (GIANT)

【東海大学：2010年度採択】

本プログラムでは、アジアの優秀な理工系学部卒業生を対象に、日本の約40年に及ぶ実績と経験を基にした、原子力発電並びに関連技術に関する実務教育を展開しています。安全と安心を最優先する倫理観を持ち、グローバルな展開を目指す日本の原子力企業において、国内外のプロジェクトや現地日本法人などで中核となる人材を養成します。

2012年9月に最後の卒業生5名を送り出し、本プログラムを修了した留学生は総計14名となりました。全員、国内の原発メーカーやプラントメーカーを始め、日系大手電機メーカーの海外拠点などに就職しています。本プログラムは、最終年度のため今年度で終了しますが、今後もベトナム電力公社からの協力要請により公社社員を日本製原子力発電所のオペレーションを担

う中核的な人材として育成するなど、高い倫理観と高度な関連技術を有する人材の育成に努めてまいります。

## (11) 科学技術振興機構公募事業「地球規模課題対応国際科学技術協力事業」

カメルーン火山湖ガス災害防止の総合対策と人材育成

### 【東海大学：2010年度採択】

カメルーンでは1980年代のニオス湖とマヌーン湖での湖水爆発後、ガス災害の再発が懸念されています。湖水爆発を防止するために、湖に溶存しているガスを人為的に除去する作業が進められていますが、マグマからのCO<sub>2</sub>の供給速度やCO<sub>2</sub>の除去量を見積もるためのモニタリングは行われておらず、湖水爆発のメカニズムの詳細についても解明されていない状況です。

本研究では、両湖で湖水に関する地球化学的研究を行い、CO<sub>2</sub>流動系と噴火履歴解明を進めるものです。更に湖水爆発の数値シミュレーションを行い、爆発メカニズムを解明することで、湖の監視体制の確立や防災に向けた総合対策の提案を図るものです。これらの共同研究を通じて、カメルーンの研究員のキャパシティ・ビルディングを図り、両湖のガス災害を予測するために、湖の観測・研究を継続・発展できる体制の確立を目指します。

本学他、国内の4大学・1研究所と共同で研究を進めています。2012年度も順調に取り組み、CO<sub>2</sub>濃度の変化を物理的及び化学的な方法により定量的に観測しました。また、カメルーンからの留学生を昨年度と合わせて6名、本学他、国内の大学に博士課程で受け入れており、人材育成に寄与しています。さらに、カメルーン国内での研究能力を向上させる為に必要な機器などの供与も行いました。

## 【研究推進(企画)・知的財産活動】

総合研究機構の各施策は、学園の研究活動の推進・活性化を図る上で重要な役割を担っています。2012年度の各施策は、副理事長を委員長とする総合研究機構運営委員会の承認を得て実施されました。

研究活動の活性化に向けては、研究者の支援体制の強化が不可欠であり、東海大学10校舎の研究支援・知的財産部門の担当者による連絡協議会を年2回開催し、運営方針や事業計画の確認、研究支援体制及び研究関連業務などについて協議しました。

以下、研究の推進・活性化に向けた諸活動としての外部資金獲得のための戦略的研究推進活動並びに研究資金の適正執行体制の強化と管理について報告します。

### (1) 外部資金獲得のための戦略的研究推進活動について

#### 1) 総合研究機構の施策、東海大学研究フォーラムの開催

##### ① 総合研究機構の施策

「プロジェクト研究」は、総合研究機構の重点施策として、学園の多様な分野間での連携・融合による特色ある研究プロジェクトを戦略的・重点的に推進するために実施しています。本施策は、2009年度から公募制を取り入れ、研究費補助金により3種類(大型1,000万円以上、中型300万円以上～1,000万円未満、小型300万円未満)に分け、研究期間は、原則3カ年度としています。

2012年度新規公募は、大型・中型・小型を合わせて数件採択する内容で募集しました。18件(大型4・中型5・小型9)の応募があり、中型1件を採択しました。更に再募集を行い、16件(大型3・中型11・小型2)の応募があり、5件(中型4・小型1)を採択(新規採択金額2,050万円)しました。また、継続分については、中型4件・小型5件(金額2,684万4千円)を採択しました。

なお、採択プロジェクトについては、研究の進捗状況などのモニタリングを実施するとともに、プロジェクトマネージャーによるフォローアップを行いました。

「研究奨励補助計画」は、若手及び中堅研究者の育成と研究推進並びに科学研究費を始めとする競争的資金の採択率向上を目的に実施しています。2012年度公募においては、94件の応募があり、29件（金額1,550万円）を採択しました。

「研究集会補助計画」は、学会などの開催費用の一部を補助（1件当たり30万円限度）するもので、2012年度は、上期開催分として10件（金額104万円）、下期開催分として17件（金額153万円）に対して補助しました。

「学術図書刊行費補助計画」は、学術研究成果の発表を目的として刊行する学術図書について、その出版費の2分の1を上限として補助するもので、2012年度の実績は、0件でした。

## ② 東海大学研究フォーラムの開催

「東海大学研究フォーラム」は、研究費を学内資金より補助している総合研究機構施策などの研究成果発表の場として開催しています。2012年度は、前年度同様、「東海大学産学連携フェア」と同時開催（12月6日）しました。

当日は、プロジェクト研究8件の口頭発表を行ない、併せてポスターセッションとして、プロジェクト研究9件、研究奨励補助計画18件、沖縄研究助成3件、連合後援会研究助成7件及び付置研究所コアプロジェクト5件、合計42件の研究発表を行いました。

## 2) 技術移転（TLO）事業の実施

### ① 特定大学技術移転事業（承認TLO）の実施

2008年3月、経済産業省・文部科学省から承認TLOとして承認されスタートした「産官学連携センター」は、2012年度の事業実績報告書を提出しました。

承認TLOは、「大学などにおける技術に関する研究成果の民間事業者への移転の促進に関する法律」に基づき、承認を受けた技術移転事業者に補助金が交付される事業で、本学では2008年度2,697万4千円、2009年度2,394万円、2010年度1,978万円、2011年度1,149万円の補助金を受け、2012年度は1,885万3千円補助金を受けました。

### ② 外部イベントへの出展

産官学連携センターでは、毎年、外部機関・団体が主催する各種イベントに、本学の研究シーズ及び技術移転の成果などを出展、併せて研究支援・知的財産本部の活動状況について情報発信活動を行っています。2012年度は、出展イベントの選択と集中を行い、政府主催のイノベーションジャパン、アグリビジネス創出フェアをはじめ、18回の出展、講演会、新技術説明会を行いました。その他に、北海道地区、静岡地区、九州地区などにおいて、各研究支援課が研究成果及び技術シーズなどの出展を行いました。これらの活動が、企業などへの技術移転・共同研究に繋がり、外部資金の獲得増に貢献しました。



アグリビジネス創出フェア

## 3) 大学等産学官連携自立化促進プログラム整備事業の実施

本学は、文部科学省の「産学官戦略展開事業（戦略展開プログラム）」に採択され、2008年度から本事業を推進し、2012年度で最終年度を迎えた〔2008・2009年委託費1,800万円/年、2010年度より事業の名称が「イノベーションシステム整備補助事業（大学等産学官連携自立化促進プログラム）」と変更となりました。2010・2011年度は補助金1,800万円/年、2012年度は、1,602万円〕。

当該事業では、医学研究科ライフケアセンターが推進する「産学連携プロジェクト・健康医科学研究」を核に推進しており、2012年度は、企業20数社との産学連携活動の場である「健康医科学産業推進協議会」の連携活動を支援しました。具体的には、事業化スキームの具体化

検討、成果拡大に向けた企業・自治体との連携強化、知財活動基盤システムの整備、研究実施マネジメントの支援、協議会の運営支援、産学官活動の基盤となるシステムの構築を行い、2013年3月には、報告会・公開シンポジウム「産学連携プロジェクト・健康医科学研究」を開催し、約150名の医療関係者・関連企業・自治体・大学関係者などが参加しました。

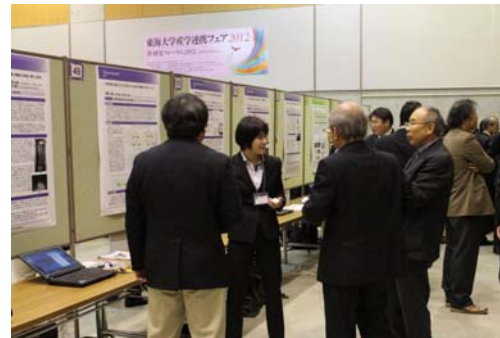
なお、本整備事業は、2012年度で終了しますが、医工連携、健康医科学研究プロジェクトなどを通じ、ポスト整備事業における大学の産学官連携機能の強化に向け、医学系大学産学連携ネットワーク協議会などの外部機関との連携活動を推進しました。

#### 4) 「東海大学産学連携フェア2012」の開催

本フェアは、大学の研究シーズと企業ニーズとのマッチングを目的として、2004年度から毎年12月に開催しています。2010年度より、本学が戦略的に推進する研究プロジェクトの成果報告会（東海大学研究フォーラム）と同時に開催しました。2012年度の産学連携フェアは、61件の研究成果を一堂に紹介するポスターセッションをはじめ、特別講演、「未利用エネルギーの活用研究～熱音響機関～」のデモンストレーションとプレゼンテーション、17号館地下の高度物性評価施設の見学及び情報交換会を行い、学内外合わせて約430名が参加しました。

来賓の文部科学省科学技術学術政策局産業連携・地域支援課長の里見朋香氏、経済産業省産業技術環境局大学連携推進課産業技術人材企画調整官の大家利彦氏が「産学官連携の現状や今後の方向性等について」の特別講演を行い、橋本巨副学長（研究担当）は、東海大学の産学連携・研究戦略と題して、東海大学の強みを生かした研究プロジェクトなどを紹介しました。

以上、本フェアなどを通じて大学の知的財産・研究シーズを発信、企業ニーズとのマッチング活動及び技術移転を実施しました。特に特許などの知的財産権のほか、国内外の研究機関・企業などにマウス・ラットなどの有償マテリアルの提供を行い、2012年度の知的財産ライセンス収入増に大きく貢献しました。



東海大学産学連携フェア 2012

### (2) 知的財産の保護及び活用促進について

第61回総合研究機構運営委員会で承認されました「知的財産の管理に係る基本計画（取扱方針）」に基づき、知的財産の取得・管理は、企業への技術移転、研究推進に必要な競争的資金獲得のためのツールなど、活用目的を明確にした活動を展開しています。委員会承認から1年間は、これら方針の周知に努めるとともに、発明者が在職中の国内の特許権については、技術移転先探索のための経過措置として発明者の希望により、権利を維持することとしました。また、外国出願については、原則として知財方針に沿った取扱いを行いました。

知財方針承認以降、特許などの出願、審査請求、拒絶通知への応答、特許料納付など、特許庁への手続きが生じるごとに発明代表者と情報交換を従来に増して行い、単に特許を権利化するだけでなく、活用に向けた意識の向上、新たな発明の発掘を図りました。その結果、発明者の協力及び効率的な技術移転活動により、新規実施許諾（5件）や権利譲渡（8件）の技術移転契約が成立、昨年比11.8倍の知財収入（技術移転対価：約2,000万円）が得られました。新規発明相談は、42件でした。また、退職などによる発明者不在の知的財産権や外国出願した知的財産の精査は、特許関係費の大幅な支出抑制（昨年比約46.5%、約2,000万円減）に繋がりました。

### (3) 研究資金の適正執行体制と研究活動の法令遵守の強化について

研究支援・知的財産本部では、公的研究費の適正執行のため、2012年度も2回の校舎間連絡会議を開催し、業務の改革、調整及び統一を図りました。また、他校舎担当者による内部監査もそ

れぞれ実施し、法人監査室の協力も仰ぎ業務の適正執行の確認を行いました。これらにより校舎ごとの業務差異を最小限に止めることができました。また、外部資金獲得増を目指し、募集説明会の充実などを図り、2012年度の科研費獲得数は前年度比30件の増加をみました。また、2013年度申請率も大学全体の目標率50%を超えることができました。

教育・研究活動に伴う法令遵守については、実質的な運用を図りました。特に「国立大学法人動物実験施設協議会及び公私立大学実験動物施設協議会」による動物実験に関する相互検証プログラムに従い、自己点検・評価を行い、適切な体制・運用が高く評価されました。

## 【国際戦略本部事業の活動】

### (1) 国際戦略構築のための組織的連携

外務省や文部科学省、経済産業省などの政府機関や国際協力機構（JICA）などの国際関係の諸団体、更には在日外国公館との連携を積極的に進めました。

以下の留学生の受入や、プログラムへの参画が決定しました。

- 1) 外国政府系奨学金プログラム
  - ① サウジアラビア王国政府アブドラ奨学金
  - ② カザフスタン政府ボラシヤク奨学金プログラム
  
- 2) 外国政府の日本向け留学生派遣プログラム
  - ① サウジアラビア王国職業訓練公社進学プログラム（KASPTT）
  - ② マレーシア政府マレーシア日本高等教育プログラム（MJHEP）
  
- 3) 日本国政府・国際協力機構（JICA 関連）
  - ① アフガニスタン共和国への「未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト」
  - ② カンボジア政府への「JDS（Japanese grant aid for human resource Developments Scholarship program）」
  - ③ ベトナム原子力人材育成プロジェクト

その他、アセアン工学系高等教育ネットワーク（SEED NET）、マレーシア日本国際工科院（MJIT）に対して関与を継続しています。

### (2) 国際的な研究推進の環境整備

サウジアラビア王国の3大学と次の研究交流を始めました。

- 1) キング・アブドゥルアズィーズ大学（KAU）

「太陽光発電及び UAV のデザイン」に関する研究プロジェクト
  
- 2) エファット大学  
エファット大学工学部（Computer Science 学部）とのコンピューターサイエンスカリキュラム開発に関するプロジェクト
  
- 3) アル・イマーム・ムハンマド・イブン・サウード・イスラーム大学  
太陽光電池研究室設置に関わるプロジェクト

また、2012年度中に開催された研究会は次のとおりです。

1) 国際情報安全保障シンポジウム「現代の国際情報安全保障—サイバー世界の政治学—」(2012年10月29日、30日)

2) 「第2回日中シンクタンク安全戦略対話」(2012年2月15日)

その他、オーストリアのウィーン大学とは若手研究者育成のためのプログラムの継続について協議を重ねています。



国際情報安全保障シンポジウム

### (3) 受入派遣留学プログラムの充実

海外派遣留学プログラムについては、新規コースの拡充に努め482名の応募者の中から325名を派遣しました。学部・研究科、北海道キャンパスの協定まで含めると全体で558名の応募者から397名を選抜して派遣したことになります。前年度と比較すると実質派遣人数で9%の増加です。

受入留学生に対しては、(1)で述べたようにサウジアラビア王国職業訓練公社進学プログラム(KASPTT)、ベトナム原子力人材育成プロジェクトに対して、国際教育センターで受け入れのためのプログラムを開発しました。

また、受入留学生数については、協定による留学生は140名であり、ほぼ震災前の水準に回復しました。しかし、私費留学生を含めた受入留学生数は微減の状況が続いています(留学生数2010年度秋学期:600名 2011年度秋学期:585名 2012年度秋学期:567名)。

### (4) 数値目標を伴う留学生募集活動の展開

留学生倍増という中期目標達成のため、外国政府奨学金などの外部資金による留学生の招致や、国内外における留学フェアへの参加など、留学生募集活動を展開しました。東日本大震災において激減した志願者数に対して、2012年度においては、2010年度の水準に近づけることを数値目標としました。

2010年度に実施した2011年度入学試験の志願者は過去最高となる160名。これに対して2011年度に実施した2012年度入学試験の志願者は48名でした。2012年度に実施した2013年度入学試験の志願者は110名であり、確実に回復傾向にあります。

### (5) 国際交流のためのインフラ整備

長年の懸案であった湘南校舎の国際会館(男子留学生寮)の改修が実施されました。

また、パシフィックセンター(TUPC)・ハワイ東海インターナショナルカレッジ(HTIC)のハワイ大学ウエストオアフキャンパス敷地内への移転計画が進行中です。

### (6) 国際広報の強化・充実

2011年度より国内外に対する入学広報を入試センターから移管し、国際教育課留学生係(OASIS: Office of Admission Services for International Students)が担っています。2012年度は大韓民国向けに韓国語の留学生サイトに広告を掲載したところ、韓国人留学生志願者の増加に効果が認められました。海外に対しては、WEBを利用した広報宣伝活動が最も合理的と考えられるので、WEB出願も視野に入れ積極的に推進します。

### (7) 外地機関運営についての再構築

東海大学海外連絡事務所ソウルについては、協定校である漢陽大学国際部の支援により、大韓

民国からの留学生招致活動において大きな力となりました。

東海大学海外連絡事務所バンコクについては、その機能を強化し、東南アジアにおける本学の橋頭堡とするために、モンクット王ラカバン工科大学内の事務所機能を維持しながら、バンコク中心部に別の拠点を設ける計画が策定されました。

また、ヨーロッパ学術センターがモスクワ大学との交流活動のセンターとなることになりました。ヨーロッパ学術センターの参入により、半世紀の歴史を持つ本学とモスクワ大学の交流がより緊密となることが期待されます。

## 【情報化推進】

中央教育審議会大学部会「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」の中で、学士課程の質的転換が強く謳われており、プロジェクトベースドラーニング（PBL）やアクティブラーニングなどの教育方法の改善が求められています。これらの教育方法の改善は、単に授業の内容を改善するだけでは難しい部分も多く、教育を支援する ICT 機器の導入も同時に検討していくことが望ましいことでもあります。このような状況下において、今年度は、学園における情報環境均一化の実現、及び小中高大の ICT における効率化の実現に向けて次のような活動をしました。

### (1) 各組織間のコミュニケーション環境の向上

- 1) Web 会議システム（WebEx）を正式に導入して、各組織間における ICT を活用したコミュニケーション環境の向上を図りました。Web 会議システムは各種委員会の遠隔開催、金環日食サイエンス教室での遠隔授業などで効果を発揮しました。
- 2) 学習支援システム「Course Power」の本格稼働によって、付属望星高等学校の全授業及び教育支援センターが実施した入学前学習において、学習効果及び学習環境の操作性を向上させました。

### (2) ICT 環境を活用した高大連携による学習及び情報共有方法の研究

2012年8月20日及び21日に「高大連携情報化推進研究会」を高輪キャンパスで開催し、大学教職員及び高校教員を交えて、次のような ICT 環境を活用した学習及び情報共有の研究を行いました。

- 1) 学習支援システム（Course Power）の操作について確認し、授業活用、校務支援、教材開発での情報共有方法などを検討しました。
- 2) Web 会議システム（WebEx）を研究会の中で、遠隔の付属高校とのミーティングに用いて、実践的な活用方法の研究を行いました。
- 3) 複数のシステムを組み合わせた効果と可能性、問題点などを検証しました。

### (3) 教室の ICT 化に関する研究

情報化推進本部後援、情報教育センター・外国語教育センター・チャレンジセンター主催で「教室の ICT 化による教育効果と課題」を2013年1月12日に実施し、約40名の教職員が参加して活発な議論を行いました。



教室の ICT 化による教育効果と課題

## 2. 初等中等教育機関

### 【教育機関再編事業の推進】

#### (1) 附属幼稚園・附属小学校の新築・移転

附属幼稚園ならびに附属小学校が、清水キャンパス（静岡市清水区折戸）内の附属翔洋高等学校・中等部の隣接地に移転し、高い耐震安全性を確保した校舎の新設を完了しました。移転により、幼稚園・小学校から、中学・高校、大学への一貫教育体制のさらなる拡充をはかり、教育活動がより機能的に行えるようになります。

#### (2) 附属熊本星翔高等学校

附属第二高等学校は創立 50 周年を迎え、校名を「東海大学附属熊本星翔高等学校」に変更し、制服も変更しました。また記念事業として、人工芝を敷設した日本サッカー協会及び国際サッカー連盟の公認施設として「松前記念サッカー場」を建設しました。抜本的な教育改革を推進し、部活動参加を基本とし、学習と部活動の両立を目指します。



松前記念サッカー場

### 【FD（教育力向上）の強化推進と諸制度の充実】

#### (1) 教育改革・授業改革の実践について

東海大学入学者約 7,000 名のうち 2,300 名～2,500 名が附属推薦生で占められています。特に、この数年間附属高等学校の在学生の減少が続いてきましたが、2010 年度を境に若干増加に転じました。その間も、東海大学への附属推薦生の入学者数は大きく減少することなく、常に一定数を確保しています。

そのため、初等中等教育部では各校との連携を密にとり、毎年附属推薦制度を改変しながら時代に即応した体制を整えてきました。その結果、2013 年度附属推薦入試（2012 年度実施）は、2010 年度から導入実施した「特別学力推薦及び内部推薦」の早期化とともに拡大し、6 月期に附属推薦希望者のほぼ全員が推薦候補者となることを目指した完成年度とも言えます。それにより、6 月期の附属推薦候補者数を大幅に増加させ、最終的には近年の目標である 2,500 名を超える附属推薦入学者を得ることができ、大学の学生確保に大きく貢献しました。

附属推薦で進学する生徒を早期に確保するのは、全国的な AO 入試の早期化などの外的要因に対応するとともに、優秀な附属推薦入学者を早期に多数確保し、東海大学入学者のレベルを維持・向上させる目的を持ちます。さらに、東海大学一貫教育体制の指導を受けた附属生は、東海大学での学生生活を充実させる牽引者の中核として活躍することも求められています。そこで附属推薦候補者決定後の学習指導だけでなく、入学から卒業までの日ごろの学習活動や部活動について、より効果的な指導プランを検討し、実施してきました。

また、その動きに呼応するように、大学の附属推薦に対する取り組みも変更してきています。高等学校・大学の更なる連携をはかるために、高大連携運営委員会や各専門部会などを設置し、高大で一貫性のある入学前教育と大学入学後の初年次教育などを検討しました。その結果、早期化に対応した「個別指導課題Ⅰ」、課題Ⅰの結果を持参して大学教員が各付属校に出向いて行う「巡回指導」、課題Ⅰと関連し発展した内容の「個別指導課題Ⅱ」、英語などの内容を充実させ全ての学部・学科で実施可能となった「e-learning」、早期単位履修が可能な「体験留学」など、幅広く附属から大学入学への移行期間における高校生活を、文武両面において充実したものとす

る工夫を重ねました。

## (2) 理系進学者増への取り組み

一貫教育委員会（2005年度・2006年度）の第二部会（理数・工系教育の推進と試行及び教材開発）からの提言を受け、初等中等教育機関の各校では、理工系進学者を増やす取り組みを継続して行っています。「中高生を理系進学に繋げるための委員会」の活動、及び全附属高等学校のSPP（Science Partnership Project）取得を目指すなどの方針を継続し、学園オリンピックなどの活動を中心に東海大学ならではの高大連携教育を実践しました。

2007年度から「女子理工系進学者を増やすための委員会」を設置し、「実験と交流会」を開催するなど、高等教育機関と初等中等教育機関が協力して中高生の理系進学者を増やすための具体的方策を検討し、2009年度には、女子に限定せず、宿泊研修に発展させて引き継がれています。2012年度はチャレンジセンターのサイエンスコミュニケーターとの連携を強化し、きめ細やかな体制で実施することができ好評を得ました。また、学園オリンピック参加関係者のための学部説明会とリンクさせ、「実験と交流会」がさらに進路と直結するよう工夫し、中高生に対して早期に興味づけができるようにしました。

2008年度から継続して開催してきた「SPP・SSH（Super Science High School）成果発表会」は、活動の成果を発表する場を生徒に与え、他校から受ける刺激や附属校同士の連携などがはかれることから年々参加者が多くなり、より一層内容が充実し活発な活動となっています。2012年度は附属相模高校・中部部が幹事校となり、代々木キャンパスで開催しました。参加校は8校で、参加生徒44名、教職員は37名、ポスターセッション12テーマ、オーラルセッション7テーマの発表が行われました。また会場の状況は、Web会議システムにより全国に配信され、当日参加できなかった高等学校や大学の各機関を結び、学園全体に広く活動内容を報告することができました。



SPP・SSH 成果発表会

## (3) 教科研究授業への取り組み

2008年度からの学園教科モデル校によって定着した公開研究授業を全ての教科を対象に「公開研究授業」として現在も継続しています。各教科の講評会では、授業参観結果から教科会議の方針に沿った授業展開ができているかの検証や改善の方向付け、長所を更に伸ばす工夫などの積極的な話し合いを重ねる取り組みを継続しました。

また、東海大学教育開発研究所が主催する教員研修の内、2010年度からは後半を「学校研修」としました。当該校全体の教育改革・授業力向上をねらいとし、教育の質の向上だけでなく、学校独自の特色ある教育を作っていく研修であり、教育開発研究所の指導のもと概ね定着してきました。さらに地域との連携教育を重視し、学校が地域の教育の拠点となる「地域連携教育改革プロジェクト」を実施しました。2012年度は附属第五高校、附属浦安高校、附属翔洋高校の附属3校で実施し、地域の小中高校、大学、ボランティア、企業が出展しました。その結果、地域とのつながりができ、教員が優れた教育を目指し、更なる授業改善の取り組みに力を入れる原動力にもなっています。

## (4) 教員研修計画

2012年度も、教員総合人事制度の目的である教員の資質向上と能力開発を更に充実させるた

め、人事考課制度の昇格システムと連動させ、研修対象者の研修成果をより高めるために、研修内容を精査し、全体研修やグループ研修を取り入れ、充実した教員研修を実施しました。

- 1) 資格等級別研修会…4つの資格等級で昇格後3年間、資格ごとに年1回実施。
- 2) 役職者研修会…新規校園長と副校長・教頭を対象に年1回実施。分掌主任・室長・学年主任は、課題研修を実施。
- 3) 考課者研修会…新規一次考課者に年1回実施。
- 4) 新規格付け予定者(中級職1・2種)講習会…研修ビデオを視聴のうえ、課題レポートを実施。
- 5) 土曜研修…各付属校から数学・英語・理科の教員各1名以上が、代々木キャンパスや各校に参集し、土曜研修を実施。また、7月下旬に宿泊研修を実施。
- 6) 学校研修…「個の研修」から「教科を単位としたグループ研修」にも力を入れ、対象校の授業力向上を目指す取り組みを実施。
- 7) 資格等級別課題論文…年2回実施。
- 8) 新採用教員講習会…望星学塾を会場に一泊二日で実施。

#### (5) 特色ある幼・小・中・高から大学への一貫教育の確立と生徒募集

2013年度入学生確保については、現在順調な校園も含めて将来の展開に不安を感じていましたが、中等部入試は増々厳しさを加速させています。「公立優位」の地方では、相変わらずの苦戦続きで、生徒数が激減した校園では、それぞれの特性や地域の事情などを鑑みて適切な措置をとっており、著しい効果が上がった例もありますが、速やかな効果が期待できない例もあります。

幼稚園については、付属幼稚園を除き3園については比較的順調に園児の確保ができています。静岡地区の幼小については、新校園舎を落成させたにもかかわらず低迷が続いており、今後抜本的な改革が急務です。中等部では第四中を除き、学則定員を若干下回る学校もありましたが全国的に厳しい中、まずまずの堅調でした。高等学校では、昨年募集定員を大幅に上回る結果となった熊本星翔高等学校、ならびに首都圏の浦安高等学校、相模高等学校、高輪台高等学校、望洋高等学校と仰星高等学校が募集定員を上回る入学者数となり、順調な結果でした。地方校の翔洋高等学校、第三高等学校、第四高等学校等は募集定員を大幅に下回り、かつ昨年度結果よりもさらに低迷する結果となりましたが、全体的には、ほぼ計画どおりの募集ができており、地道な募集活動が着実に結果に結びついています。

今後は、札幌地区や静岡地区、熊本地区、福岡地区など大学キャンパスと隣接する付属校園が、教育だけでなく部活動や施設設備など多岐にわたって密接な連携をとることが重要です。そこで「一貫教育体制検討プロジェクト」を立ち上げ、より具体的な一貫教育を確立し実践していきます。それぞれの校園が「東海大学の付属」であることと「特色ある教育」により地域で評価される校園として成長し、安定した健全経営が可能となるよう継続して教育改革を行うとともに、中高では、「文武両道」を旗印に、特に部活動による専願入学希望者を増加させることが今後の課題です。

#### (6) 各校園の学則定員、募集定員の見直しと適正教員数の配置

2011年度までに生徒募集の現状を見極め、必要に応じて各校園の「学則定員」及び「募集定員」を見直してきました。また、計画的な教員採用と人事異動の活性化を継続し、学校規模や特

性に配慮した適正教員数により近づけるための人事異動を行いました。

今後も継続して教科ごとのバランスを考慮し、専任率・年齢構成を学校規模に合わせて整備し、安定した経営基盤の構築に努めていきます。

## 【その他初等中等教育機関における主な活動】

### (1) 学園オリンピック

学園オリンピックは東海大学独自の一貫教育を具現化した教育プログラムです。東京オリンピック開催を記念して1964年に始まった当初はスポーツ大会として行われていましたが、年々部門を充実させ、現在では国語部門、数学部門、理科部門、英語部門、芸術（造形）部門、芸術（音楽）部門、知的財産部門、ディベート部門、スポーツ大会の9部門が設けられています。対象となるのは本学園の高等学校と中等部で学ぶ全生徒で、毎年5月に芸術（音楽）部門、8月には高校生を対象にスポーツ大会がそれぞれ3日間、湘南キャンパスで開催されます。他の7部門は7月末から8月初旬の6日間、夏季セミナーとして東海大学孺恋高原研修センターで開催されます。学園オリンピックの目的は、本学園の附属校と東海大学の教員が一体となって若者の才能を伸ばすことにあります。他者と競い順位づけすることが狙いではなく、才能あふれる生徒たちが相互に刺激し合い、切磋琢磨しながら成長していく場になっています。同時に優れた才能を早期に発見し、それをいっそう大きく育てるという重要な役割も担っています。

2012年度は芸術（音楽）部門に76名が応募し、二次審査を通過した22名が参加しました。スポーツ大会には9競技に1,982名の生徒が参加しました。また7部門の夏季セミナーには合計で1,875名が応募し、各部門の審査を通過した158名が参加しました。

スポーツ大会を除く文化部門の成績優秀者には東海大学、短期大学への特別奨励入学の道も用意されています。教員と寝食を共にしながら学びの面白さを体験し、学校や学年の垣根を越えて友情を深めることができます。学園オリンピックは東海大学ならではの、きわめて個性豊かな教育プログラムです。



学園オリンピック 数学部門

### (2) 海外研修

本学園ではヨーロッパ学術センターやパシフィックセンターなど海外に様々な関係施設を有しており、国際化時代を担っていく若者のために、これらの施設を利用した海外研修制度を設けています。

毎年冬には、希望者を募って「附属高校生のためのヨーロッパ研修旅行」を実施。デンマーク、ドイツ、オーストリア、フランスなどのヨーロッパ各国を訪れ、デンマークでは東海大学の「建学の精神」の源流に触れ、ヨーロッパの文化を体感し幅広い人間形成を図っています。2012年度の第32回研修旅行には1年生から3年生までの附属高校生46名が参加しました。

また2000年度より「ハワイ中期留学制度」(SHIP: Senior High School Intercultural Program)を実施。高校3年生の1月～2月の52日間にわたってハワイ東海インターナショナルカレッジに留学し、国際的視野の体得、自立心の確立を目指します。2012年度は40名の附属高校生がプログラムに参加し、この年代にこそふさわしい貴重で有意義な体験を積んでいます。

### (3) 社会貢献

本学園では社会教育の一環として、様々な社会貢献活動に取り組んでいます。例えば「東海大

学建学の地・三保の松原美化運動」は1966年より活動を開始。自然美化と同時に人を思いやる気持ちを育むことを目的に、静岡地区にある本学園の各教育機関で学ぶ園児、児童、生徒、学生と教職員が地元自治体と協力しながら、静岡市清水区にある三保の松原とその周辺を清掃しています。第47回を迎えた2012年度の美化運動では、約2,000名が参加しました。

また、山形高等学校では、生徒会による東日本大震災被災地ボランティア活動を震災直後から実施しています。生徒会執行部が山形ボランティア隊との協力を得て、現地の要望に沿った活動を、2011年度に5回、2012年度に4回実施しました。石巻市の活動では、津波で倒壊した家屋の解体や、ホヤの種付け用に使うカキ殻の選別、カキの養殖用のブイに屋号を書く、吹奏楽部による野外コンサートを開催など、高校生として携わることのできる活動を懸命に続けました。また復興支援ボランティアのかたわら、被災地の視察や現地の人々の話を聞くことで、震災の記憶を共有する学びを取り入れています。生徒会では来年度も活動を継続する方針です。

5月21日の金環日食では、各地の付属諸学校で地域と連携した金環日食関連イベントがおこなわれました。地元の小中学生や保護者などに「金環日食観測のための科学実験教室」や「事前勉強会」などを開催し、観測時の注意点や金環日食の仕組みの講義や、テレビ会議システムを使って湘南キャンパスから配信された、教育開発研究所の滝川洋二所長らによる「日食科学教室」を視聴し、学園のスケールメリットを生かした地域連携の理科教育を実施しました。



東海大学建学の地・三保の松原美化運動

### 3. その他の機関

#### 【付属病院群】

病院本部主導により各病院間の連携強化に向けて具体的な施策を明示したことにより、今年度も4病院連結収支での単年度黒字が継続できました。特に、目標の1つであった大磯病院の単独黒字化が実現できたことは特筆すべき事項と思われます。東京病院については、現状のままでは単独黒字化を達成することが厳しい状況です。このため、今後の運営体制について検討を進めており、2013年度中には方向付けを行う予定です。また、恒常的な医師不足対策として、臨床助手・臨床研修医の確保を目的にWGを立ち上げ具体的な医師確保策を検討しています。更に、看護師不足対策についても通年の看護募集や離職防止に取り組むとともに、積極的な募集体制をとります。次年度以降も医師・看護師・医療技術職員・事務職員を含めた全職種による横断的なチーム医療を推進し、更なる役割分担を明確にしつつ、勤務環境の改善を図っていきます。

#### (1) 医学部付属病院について

前年度に引き続き、高稼働高回転の病床運用により平均在院日数が10日台を記録するなど前年度実績を上回る状況であり、私立大学においては1位、全国病院ランキングで4年連続トップクラスの評価を維持しました。

##### 1) 効率的な診療体制の確立

###### ① 入院診療から外来診療への転換

高齢化により増加傾向にある心疾患やがん患者に対する外来診療機能の充実を目指し、外来付属棟の増設・外来化学療法室の拡張計画が決定し、2013年度実現に向け取り組みます。今後放射線治療装置の増設などについても、大学病院としての診療体制強化策として検討を進めています。

## ② チーム医療の推進

医療安全体制の確保と業務分担を目的とした薬剤師の病棟配置が実現することとなりました。また、医療従事者（有資格者）の負担軽減を図るため、メディカルセクレタリーなどの業務内容を再検討して更なるチーム医療の推進を着実に進めています。

## 2) 地域連携の強化

### ① 入院診療の高度化

急性期に特化した入院医療の実現を目指し、患者支援センターを中心とした退院調整機能が順調に進んでいます。それにより、平均在院日数が10日台を記録するなど、高回転の病床運用を実現しています。今後、大学病院として先進医療を提供すべく、ロボット手術の導入に向けて検討を行っています。

### ② 地域医療機関との連携強化

近隣の医療機関を中心に機能分化・役割分担を推進すべく、病院訪問及び返書記載の徹底を継続的に実施しています。それにより、紹介患者数及び紹介率の増加に繋がっています。また、大磯病院への転院促進とともに、東京病院への転院についても検討中です。

## 3) 医療の質の管理

### ① 医療安全対策

入院及び外来患者数の増加に伴い業務繁忙状態が続き、不測の事態が発生しやすい環境となっているため、薬剤師の病棟配置や認定看護師による静脈注射実施など、職種間業務分担の見直しやチーム医療の推進により医療事故防止に努めています。

### ② 院内感染防止対策

インフルエンザやノロウイルスなどの感染症や多剤耐性菌の拡散防止に向けて、院内感染対策室を中心に各種委員会での対策・啓発活動、病棟ラウンド等を行い、院内感染の防止対策を行いました。

## (2) 医学部付属東京病院について

2012年度は、本院の規模に見合った効率的な病院運営を心掛け、中期目標である収支均衡の達成に向け、地域医療連携活動を中心とした患者獲得活動を積極的に行ってきました。

### 1) 医療機器の損耗更新

購入の計画を予定していた超音波診断装置、光干渉装置等を導入することができ、検査体制の拡充と予約待ち時間の短縮等が図られました。また、長期間使用してきた各種医療機器類も3年計画で更新を進めてきており、効率的で機能的な機器に置き換えることができました。

### 2) 医療連携への促進

医療機関を中心とした訪問先の新たな開発と、交流イベントの自主開催と積極的な講演活動等を行い、新規患者の増加に繋がる活動を継続して行いました。特に、医療連携先の拡大を目指し、積極的に周辺地域の訪問を行いました。

### 3) 経費削減の推進

① 効率的な経費の執行を目指し、日常業務の効率化と効果的な修繕工事に心掛け、各種公共料金の値上げ分を吸収し、全体的な経費の圧縮を図りました。

② 看護師の定数を確保し、7対1看護を継続するため看護職員獲得対策を積極的に行い、当初の目標水準を維持しました。

## (3) 医学部付属大磯病院について

2006年度以来の赤字から脱却し、医療収入予算を大幅に上回ることができました。大型放射線機器や PACS（医療画像情報システム）の導入が医療収入を下支えし、医療経費を抑えながら、

市民公開講座の定期開催等、広報活動により受診患者を増やせたことによる成果といえます。

#### 1) 近隣医療機関、高齢者施設等との連携推進

- ① 中郡医師会共催の「市民公開講座」の定期開催や「医学豆知識」などの発行を通じ、近郊の住民や医療機関に対し、大学病院としての専門性を強調した広報活動を強化した結果、大幅な紹介患者増に繋がりました。
- ② 近隣高齢者施設関係者との協議会や医療フォーラムの開催等を通じて、顔の見える連携を強化しました。患者支援センターの活動を通じ施設からの患者を受け入れ、付属病院との病院間連携による病床運用の効率化を推進し、入院患者の転院先確保を含めた在宅復帰が計画的に行われた結果、紹介率が向上し、地域基幹病院としての位置付けがより強固なものとなりました。
- ③ 平塚・大磯・二宮各救急隊の救命救急士の教育実習や年度当初に開催した救急医療懇談会を通じ、救急患者の円滑な受け入れが推進できました。

#### 2) 経費の抑制

- ① 人件費削減のため、システム化の推進、業務の合理化と専任職員が行っていた業務の委託化を推進しました。
- ② 医療材料等の棚卸を定期的実施し、デッドストックの削減、啓発活動に努めた結果、医療経費率を抑制することができました。
- ③ PACS の導入やシステム化の推進により、フィルム関係費用を削減できました。

#### 3) 大磯町との業務連携強化

大磯町との事業協力の拡充に努め、「大磯町・東海大学提携事業運営協議会」も定期開催され、地域基幹病院としての位置づけが明確化されました。

#### 4) システム化の推進

- ① PACS の導入により検査の内容が迅速化され、医療収入の増加・人件費抑制・経費の抑制が推進され、併せて患者サービスに大きく貢献しました。
- ② 医事システム・電子カルテ・看護支援システムなどを包括したシステムリプレイスが確定し、次年度実施に向けた具体的な会議体が発足することとなりました。
- ③ 会計システムの導入は、業務の合理化を推進させ、入金機の設置により現金管理に伴うリスクが軽減されました。

#### 5) 将来構想

将来構想検討小委員会を発足させ、同委員会のもと年度当初から手術室WG・外来WGが活動を開始し、協議を重ねた結果、年度内に敷地測量を完了し、2013年度内に手術室増設・救急外来拡充・外来ブース増設・仮称プレハブ棟新築までの計画を立案し、実現化する目処がつかしました。

### (4) 医学部付属八王子病院について

2012年度は、黒字化を維持することはもとより、更なる安定運営を目指し、放射線治療等の新たな診療科を開始しました。また、教職員が一致団結し、500床全床開床に向かってその体制の構築に努めており、成果も現れつつあります。なお、予てからの懸案事項であった医薬分業についても2014年度の実施に見込みがつかなど、大きな成果を上げることができました。

#### 1) 医療収入増加対策

- ① 2012年度は、稼働病床を425床から437床に増床し、平均稼働率94%、1日平均外来患者数1,150人を目標にした結果、稼働率は、93.2%と概ね目標に近い数字となりました。1日平均外来患者数は、1,185人と目標を上回り、紹介率も平均で60%近くになり、順調に推移しています。

- ② 放射線治療専任医師を配置して計画どおり4月から診療開始し、更に乳腺外科（入院・外来）、総合内科（外来）の診療を開始し、大学病院としての診療機能を拡充することができました。特に、放射線治療装置は、最新鋭の装置を導入しており、八王子市や近隣のクリニック等から寄せられる期待も高くなっています。
- ③ 患者支援センターの病床運用及び入退院調整機能の充実を図った結果、病床を増加させても目標に近い稼働率が推移できたことは、一定の評価ができるものと考えています。今後は、当初目的の1日40人に向けて当センターの病床運用機能、入退院調整機能と医療連携機能の強化を図ります。

## 2) 院外薬局開設に向けた具体的な活動の展開

医薬分業を実施するための関係機関・関係部署との具体的な調整を行うことができ、2014年度に院外薬局を開設できる目処が立ったことから八王子市への土地の一部返還に伴う手続きを実施しました。

## 3) PACS（医療画像情報システム）の更新

当院のPACSは、導入後10か年が経過し、経年劣化に加えて容量が限界に達していたため、業務に支障を来さないようにPACSの更新を行いました。なお、将来的な病院群のシステム統一を目標に付属病院と同一メーカーを採用しました。

## 4) 研修棟2の建設

500床全床開床を想定したうえで不足が予測される居室（教授室・委託職員更衣室・研修室・図書室・院内保育を含む）に対応する研修棟2が完成し、教職員の職場環境の向上に寄与しました。

# 4. 教育環境整備の推進

現在、本学が実践している「特色ある人材育成教育」の一つであるチャレンジセンター活動の中には、地域の活性化を目指し、各キャンパスに自治体及び近隣住民を巻き込んだ活動が展開されており、これらの活動を更に充実させることにより、今まで以上に地域との良好な関係を構築しました。秦野市、平塚市、伊勢原市及び大磯町とは、それぞれ連携協定の締結期間は異なるものの、3市1町との協力関係は、長年の交流実績を踏まえ、行政だけに留まらず、市内の県立高等学校、商工会議所及び各種市民団体などとの交流も盛んとなっており、更に充実した協力体制を構築しました。

長野県茅野市、愛媛県西条市及び石川県能登町の3つの自治体とは、大学の教育機関は設置されていませんが地域連携協定を締結しており、「大学と連携した地域づくり事業」を中心に交流を継続していきます。

また、代々木校舎、高輪校舎、沼津校舎、清水校舎、熊本校舎、阿蘇校舎、札幌校舎及び旭川校舎の各校舎においても湘南校舎同様に、各種公開講座の開催、自治体との共同研究及び委員派遣などの事業をとおして協力関係の強化を図りました。

なお、2013年度の目新しい交流活動としては、秦野市との提携事業30周年記念事業の展開及び3市1町の中学校教員を対象とした『「武道（柔道）・ダンス」講習会』の開催などを計画しています。

## (1) 中長期計画に基づく教育施設・設備などについて

厳しい財政状況の中ではありますが、急務となっている次の事業を優先的に実施しました。

1) 継続工事

- ① 医学部八王子病院研修棟 2 新築工事  
2011 年 11 月に着手し、2013 年 3 月に完成。
- ② 附属相模高等学校 1 号館及び 2 号館空調設備更新工事  
2010 年 8 月に着手し、2013 年 2 月に完成。
- ③ 伊勢原校舎 5 号館食堂増築工事  
2012 年 1 月に着手し、2012 年 4 月に完成。

2) 新設他工事

- ① 湘南校舎（仮称）18 号館新築工事  
2012 年 6 月に着手し、2014 年 3 月に完成予定。
- ② 湘南校舎 6 号館及び 11 号館耐震補強工事  
6 号館耐震補強工事  
2012 年 7 月に着手し、2012 年 9 月に完了。  
11 号館耐震補強工事  
2012 年 5 月に着手し、2013 年 2 月に完了。
- ③ 熊本校舎本館耐震補強工事  
2012 年 7 月に着手し、2013 年 3 月に完了。
- ④ 阿蘇校舎 1 号館耐震補強工事  
2012 年 7 月に着手し、2013 年 3 月に完了。
- ⑤ 附属熊本星翔高等学校グラウンド人工芝整備工事  
2012 年 7 月に着手し、2012 年 11 月に完了。
- ⑥ 附属相模高等学校グラウンド人工芝整備工事  
2012 年 7 月に着手し、2013 年 2 月に完了。
- ⑦ 医学部附属病院附属棟新築工事  
2013 年 3 月に着手し、2013 年 10 月に完成予定。



湘南校舎（仮称）18 号館完成予想図



## 6. 監事による監査報告書



# 監査報告書

学校法人 東海大学  
理事会 御中  
評議員会 御中

私たち学校法人東海大学の監事は、私立学校法第37条第3項及び寄付行為第13条の2の定めに基づき、学校法人東海大学の平成24年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の業務及び財産の状況について監査いたしました。

監査の方法は、理事会及び評議員会に出席するほか、理事から業務の報告を聴取し重要な決裁書類等を閲覧し、主要な関係部署において業務及び財産の状況を調査し、計算書類につき検討を加えました。

監査の結果、学校法人東海大学の業務に関する決定及び執行は適切であり、計算書類すなわち、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄付行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

平成25年5月17日

学校法人 東海大学

監事

横 塚 雅二



監事

淵上 貫之



監事

木本 雄一

